

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2026年 9-10月

「神のみかたちを回復する」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「教会の大いなる必要」

3

朝のマナ

「神のみかたちを回復する」

4

Restoring the Image of God

力を得るための食事

「じゃがいものガレット」

68

レシピ

お話コーナー

「悲しく悪い日々(Ⅱ)」

70

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2026年8月2日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Joe Maniscalco
on page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

教会の大いなる必要

真の敬虔がわたしたちのうちにリバイバルされることは、すべての必要の中で最大の、最も急を要するものです。これを求めることが、わたしたちの第一にしなければならないことです。主の祝福を受けるために熱心な努力が必要です。それは、神が祝福を喜んでお与えにならないからではなく、わたしたちにそれを受け取る備えができていないからです。天の父は、求める者に聖霊を与えようとして待っておりになります。それは、地上の両親が子どもによいものを与えようとしているのと同じです。しかし、罪を告白し、自尊心を取り去り、悔い改めと熱心な祈りによって神が祝福を与えてくださるお約束の条件を満たすのは、わたしたちがしなければならないことです。リバイバルは、祈りの応答としてのみ期待できるものです。神の聖霊のない状態では、み言葉を聞いても心に深く受けとめることができません。しかし、み霊の力が心に触れると、語られた説教は影響を及ぼさないではおきません。聖霊の働きを伴った神の言葉に導かれ、健全な思慮をもってわたしたちの集会に出席した人々は、尊い経験を与えられ、家に帰る時には、ほかの人に健全な影響を与える準備ができるのです。

古くから伝えられた真理の標準を維持した人々は、祈りの中で神と格闘することを知っていました。また、聖霊の降下を受けることを知っていました。しかし、これらの人々は活動の舞台を去りつつあります。だれが彼らのあとを継ぐのでしょうか。次世代の青年たちはどうでしょうか。彼らは神の前に悔い改めているのでしょうか。わたしたちは天の聖所で行われていることに対して目を覚ましているのでしょうか。…

わたしたちは個人個人でなすべきことをしなければならないのです。祈ることをもっと多くし、語ることをもっと少なくしましょう。罪は増えています。敬虔のかたちだけで霊と力がない状態で満足しないよう、教えねばなりません。わたしたち自身の心を熱心に探り、罪を除き、悪の傾向を正すならば、心はうめぼれにふくらむことなく、自己に頼らず、わたしたちの満足は神にあることを常に意識するようになります。

わたしたちは外側のことより、内側のことをはるかに恐れるべきです。…神の戒めを守り、イエスの証を保つと告白する人々が、矛盾のない生活をし、敬虔な模範と活動的な影響力によってみ事業をほかの人々にまさって前進させ、尊ぶことを、未信者たちが期待するのは当然です。(セクレット・メッセージ 158,159 (日本語))

リバイバルと改革が、聖霊の働きのもとに起こらねばなりません。…リバイバルは霊的生命が新たにされ、精神と心の力が活性化され、霊的死より復活することです。改革は再組織、立て直しを意味し、考えや意見、習慣や行動に起こる変化です。改革は聖霊のリバイバルと結びつかなければ、よい義の実をむすぶことはできません。リバイバルと改革にはそれぞれ与えられた分野があります。そして、その働きをするために二つのものは、溶け合わねばなりません。(セクレット・メッセージ 167 (日本語))

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



9-10 月

9 月 わたしたちの生きた機械

10 月 光のうちを歩む

清い聖なる宮

「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。」（コリント第一 6:19,20）

なぜ男女は自分たちの体力、知力、道徳力にはっきりと影響を及ぼすこれらの事柄を読み、知的にならないのであろうか。神はご自分の奉仕と栄光のために最高の健康状態を心につけて、保つようにとあなたに住まいを与えてこられた。（教会への証 2 巻 352）

身体をどのようにして最高の健康状態に保つかを知ることは義務であり、神が恵み深くも与えておられる光に従って生きるのは聖なる義務である。もしわたしたちが捨てたくない過ちを見るのを恐れて目を閉じるなら、わたしたちの罪は減じるところか増し加わる。もしある場合に光に背を向けるなら、次には無視される。身体の法則に違反するのは十戒の一つを破るのと同じ罪である。なぜならわたしたちは神の律法を破らないではいずれもできないからである。わたしたちは主を愛する以上に自分の食欲、嗜好を愛していながら、心をつくし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして主を愛することはできない。（同上 70）

神が導いておられる民は特別な民であり、世の者とは似ていない。……キリストがその心に住まわれる。神の宮は聖なるものであり、使徒は、あなたの身体は聖霊の宮であると言う。神は、体力の害となるような自己否定をするようにとご自分の子らに命じてはおられない。このお方は自然の法則に従い、身体を健康に保つようにと要求なさる。自然の道はこのお方が計画しておられる道であり、どのクリスチャンにとっても十分広い道である。神は、惜しみないみ手をもって、わたしたちの生命維持と楽しみのために、豊かでさまざまな恵みを備えておられる。しかし健康を保ち、命をながらえる自然の食欲を楽しむために、このお方はわたしたちのために食欲を制限される。このお方は、用心しなさい、不自然な食欲を抑え、否定しなさい、と言われる。もしわたしたちが誤った食欲を造りだすなら、身体の法則に違反し、身体を乱用し、自らに病をもたらす責任を負うのである。（同上 3 巻 63）

9月2日

神はわたしたちが 恵まれているようにと望まれる

「愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。」(ヨハネ第三 2)

人々が自分たちの苦しみを主のせいにするとき、主はご自分に投げかけられる考えによって、栄光をお受けにならない。なぜなら主はご自分の民の苦しみや死を喜ばれないからである。このお方は彼らが行動の正しい道を追求し、自分たちが健康でいられるように気をつけ、どのようにすまいを秩序正しく保つことができるかを知ることが望まれる。もしわたしたちが健康を保つことができる単純な法則に聞き従うことを怠って、その法則を犯し続け、正しい習慣を培うことに失敗するなら、主はわたしたちの病気を癒すために奇跡を行うことはなさらない。主が生きていてほしいと思われた人々が、今墓の中で眠っている。彼らは知識が欠けていたために自分を滅ぼした。彼らは多くの点において教えられていたが、自分たちに与えられた知識を実践するのに失敗した。しかしわたしたちは、この世での報いを刈り取り、来世の永遠の命を得るために、光の中を歩みつつ、あらゆる欠点を克服しつつ啓発されたクリスチャンになろう。(クリスチャン教育 133)

〔神の子ら〕は、少しも精神力、体力を無駄にすることはできない。

どのように健康を保つかという問題は、最も重要な問題の一つである。わたしたちが神への恐れの中にこの質問を研究するとき、食事の単純さに気づくことがわたしたちの身体的、霊的向上のどちらにも最上であることを学ぶ。わたしたちがこの事柄で賢く行動するためには、知識と分別が必要である。自然の法則には抵抗するのではなく従うべきである。

肉、茶やコーヒー、濃厚で不健康な食物を用いる害悪に関して教えを受けている人々、犠牲によって神と契約しようと決心している人々は不健康であると知っている食物への食欲にふけることを続けはしない。食欲は清められ、良くないそれらのものに関して自己否定が実践されるべきであると、神は命じられる。これは神の民がみ前に完全な民として立つことができる前になさねばならない働きである。(教会への証 9 巻 153,154)

いやされる時を待ち望む

「われわれは平安を望んだが、良い事はこなかった。いやされる時を望んだが、かえって恐怖が来た。」(エレミヤ 8:15)

多くの学生が、食事が健康に多大の影響力を及ぼすという事実に嘆かわしいほど無知である。ある者は食欲を制するために、あるいは食事に関する適正な規則に従うために断固とした努力をしたことがない。彼らは食事の時にすでに食べすぎ、さらにある者は誘惑が差し出されればいつでも食間に食べる。もしもクリスチャンと公言する者が自分たちを非常に悩ませる問題すなわちなぜ自分たちの思いがそれほど鈍く、宗教上の向上心が弱いかという問題を解決したいと望むなら、多くの場合、彼らは食卓以上に遠くへ行く必要がない。もしほかに原因がなくても、ここに十分な原因がある。

多くの者は食欲の放縱によって自らを神から引き離す。すずめが落ちるのをご存知であるお方、髪の毛までも数えられるお方は、体力を弱らせ、知性を麻痺させ、道徳の知覚力を失わせることに費用をかけて、ゆがんだ食欲にふける人々の罪を記される。(食事と食物に関する勧告 145)

やわらかい食事、スープや流動食、あるいは肉を自由に用いることは健康な筋肉、健全な消化器官、はっきりとした頭脳を与えるのに最上ではない。……食事の問題は研究すべきである。ひとりの人の食欲、嗜好、思いつき、見解に従うべきではない。だが、大いなる改革の必要がある。(クリスチャン教育の基礎 226)

わたしたちは健康の法則と調和して生きるだけでなく、他の人々により良い方法を教えるために自分自身を教育しなければならない。多くの者、しかも今の時代の特別な真理を信じていると公言する人々ですら、健康と節制に関して嘆かわしいほど無知である。彼らは教訓に教訓、規則に規則をもって教育を受けるべきである。その主題が彼らの前に新鮮に保たれなければならない。この事柄は不必要なこととして見過ごしてはならない。なぜならほとんどの家庭もその問題に目覚める必要があるからである。良心が真の改革の原則を実践する義務に目覚めなければならない。……

知性と良心を目覚めさせるよう努めなさい。自分の思いのまま用いることのできるタラントをことごとく奉仕に持ち込み、その主題の出版物でその働きを続けて行いなさい。(クリスチャンの節制と聖書の衛生 117)

9月4日

ギレアデに乳香

「ギレアデに乳香があるではないか。その所に医者がいるではないか。それにどうしてわが民の娘はいやされることがないのか。」(エレミヤ 8:22)

癒しのわざを実践する方法は多くあるが、天が認める方法は一つだけである。神の治療法は単純な自然の作用であって、強い特性で体組織に負荷をかけたり、衰弱させたりしない。きれいな空気と水、清潔、適切な食事、生活の純潔、神への堅固な信頼が、幾千もの人々が死につつある欠乏のための治療である。しかしながらこれらの治療は、人々が喜ばない熟練を要するので、時代遅れになってきている。新鮮な空気、運動、きれいな水、清潔で気持ちのよい家屋はほとんど費用がかからないですべての人の手に届く範囲にある。しかし、薬物は、資金の出費においても体組織に生じさせる結果においても高価である。(健康に関する勧告 323)

神はご自分の子らに、体力を損なうために自己を否定するようにと要求なさることはない。このお方は自然の法則に従い、身体を健康に保つようにと要求なさる。自然の道はこのお方が計画しておられる道であり、どのクリスチャンにとっても十分広い道である。神は、惜しみないみ手をもって、わたしたちの生命維持と楽しみのために、豊かでさまざまな恵みを備えておられる。しかし健康を保ち、命をながらえる自然の食欲を楽しむために、このお方はわたしたちのために食欲を制限される。このお方は、用心しなさい、不自然な食欲を抑え、否定しなさい、と言われる。

もしもわたしたちが正道からはずれた食欲をおこすなら、自分の存在の律法に違反し、自分の体を乱用し、病をもたらす責任を取ることになる。(クリスチャンの節制と聖書の衛生 151)

ギレアデに乳香がある。そこに医者であるお方がおられる。イエスは偉大な医者であられる。(原稿別冊 12 巻 8)

医者がなそうと試みることはできないことを、キリストは成し遂げて下さる。人間は寿命を延ばそうと努力する。キリストは命そのものであられる。死の力を持つ者を滅ぼすために死を経験されたお方は、すべての生命力の源であられる。ギレアデに乳香があり、そこに医者であるお方がおられる。キリストは、わたしたちが命を持つことができるために、最も屈辱的な状況の下での苦痛を与える死を耐えられた。(健康に関する勧告 332)

食欲を神に明け渡す

「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。」(コリント第一 10:31)

厳粛な責任が真理を知っている者に負わされている。すなわち、彼らの働きはすべてその信仰と調和していること、彼らの生活は精錬され聖化されていること、またメッセージの閉じるこの時代に速やかになされなければならない働きのために準備ができていることである。彼らには食欲の放縦に費す時間も力もない。(健康に関する勧告 128)

改革、絶え間ない改革が、つねに人々の前に保たれ、そしてわたしたちは、自分たちの模範によって、自分たちの教えを強化しなければならない。真の宗教と健康の法則は手に手をとって進む。罪深い満足感と関係を絶つ必要があることを彼らに示さずに、男女の救いのために働くのは不可能である。それらは健康を破壊し、魂をいやくし、聖なる真理が思いに印象づけるのを妨げる。男女はあらゆる習慣と常習行為を注意深く見て、体を不健康な状態にし、このようにして思いに暗い影を投げかける事柄を直ちに止めるよう教えられなければならない。

神は、ご自分の光をにう者が絶えず自分たちの前に高い基準を保つことを望んでおられる。彼らは教訓と模範によって自分たちの完全な基準をサタンの偽りの基準の上に高く保たなければならない。その偽りの基準は、もしも従うなら体と魂双方にとって不幸、墮落、病、死へと導く。健康を保つために、どのように飲食し、衣服を着るかの知識を得ている人々に、この知識を他の人々に伝えさせなさい。貧しい人々に実際の見地から彼らに説かれた健康の福音を持たせなさい。それは彼らが聖霊の宮である体をどのように適切に気をつけるかを知ることができるためである。(同上 480)

節制という主題は、あらゆる面において、救いの働きにおける重要な位置を占めている。(同上 443)

清められていない意志と感情は十字架につけられなければならない。これは綿密な厳しい働きと見なされるであろうが、なされなければならない。さもないとあなたはイエスのみ口から「去れ」との恐ろしい宣告を聞く。あなたはあなたを強めてくださるキリストによってすべてのことをすることができる。(教会への証 3 巻 84)

9月6日

これは神の食物である

「神はまた言われた、『わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう。』」（創世記 1:29）

穀類、果実、堅果類、野菜がわたしたちのために創造主のお選びになった食物である。こうした食物をできるだけ単純に自然のまま調理したものが最も健康的で栄養がある。それはさらに複雑な刺激的な食物によっては得られない力と耐久力と知能の力を与える。

しかし、健康的な食物はどれでも、どんな場合にでも自分の必要に適するとはかぎらない。食物の選択には注意を要する。食物は時節に適し、住んでいる土地の気候に合い、その人の職業に応じたものでなければならない。時節や気候の違った地方で用いられている食物はそのほかの場所では適しない。また職業の異なった人にはそれぞれ最も適切な食物がある。強度の肉体労働に携わっている人が食べるのによいものは、座業や、ひどく頭脳を使う人には不適當である。神は健康的な食物を種々与えておられるから、各自はその体験と正しい判断に基いて自分の必要に最も適するものを選ぶべきである。

自然が豊かに供給する果実、堅果類、穀類は十分にあり、年々各地の生産物は輸送の便が増すにつれて、さらに全般的に広く、あらゆる人にゆきわたるようになった。その結果、数年前までは高価なぜいたく品とされていた多くの食品も今日では日常の食物として万人の手にはいるようになった。特に乾燥果物と缶詰果実がそうである。

堅果類とその加工食品が肉類の代用として一般に食用されるようになり、これを穀類や果実あるいは根菜類と混じて衛生的な栄養食品とすることができる。しかし、堅果類は大量に使用せぬように注意しなければならない。（ミストリー・オブ・ヒーリング* 274,275）

甘味を取りすぎると欺きとなる

「人が見て自分で正しいとする道があり、その終りはついに死にいたる道となるものがある。」(箴言 16:25)

砂糖は、体組織を詰まらせる。それは、生きた機械の働きを妨げる。……

ミシガン州のモントカーム・カントリーであった一例を述べよう。その人は高潔な人物であった。彼は 180 センチほどの身長があり、立派な風貌であった。わたしは病氣にかかった彼を訪問するために呼ばれた。わたしはまず彼の生き方に関して彼と言葉を交わした。「あなたの目の様子が気になります」とわたしは言った。彼はあまりにも多くの量の砂糖を食していた。わたしはなぜそうするのかを彼に尋ねた。彼は肉をやめたが、砂糖ほどその埋め合わせとなるものが他にないと言った。彼の食物は彼を満足させなかったが、それは単に彼の妻がどのように料理するかを知らないからであった。あなたがのうにある者は、ほとんど女性に成長した自分たちの娘を、どのように料理するかがわからないうちに科学を学ばせるために学校へ送っているが、料理こそ第一の重要性をもつものとされるべきである。ここにどのように料理するかを知らない女性がいた。彼女はどのように健康的な食物を用意するかを学んでこなかった。妻であり母親である者がこの重要な教育分野に欠けていた。そしてその結果、まずい調理の食物が体組織の要求を満たすのに十分でないため、砂糖を節度なく食し、それが組織全体を病んだ状態にしてしまった。この男の人の生涯は、まずい調理のゆえに不必要に犠牲にされたのである。わたしがこの病人を見舞いに行ったとき、どのようにすべきかをできる限り彼らに教えようと努めた。そして、まもなく彼はゆっくりと回復していった。しかし、彼は軽率にもまだできない時に自分の力を使い、良質でないものを少し食し、そして、また伏してしまった。今回は彼のために助けとなるものはなかった。彼の体組織は生きた腐敗物の固まりのようであった。彼はまずい調理の犠牲者として死んだのである。彼は良い調理の代わりを砂糖で埋め合わせようとしたが、それは事態を悪化させただけであった。……

砂糖は大量に用いると、肉よりも害をなす。(教会への証 2 巻 369,370) .

デザートに関する多様な小皿は、助けにもならず健康的でもなくかえって有害であり、わたしに与えられた光によると食物の準備において断固とした変更が必要とされるべきである。(スパルディング・マーガソン・コレクション 72)

9月8日

なすべき霊的な礼拝

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてさげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」(ローマ 12:1)

〔キリスト〕は屈辱の生涯にまで身を低くされた。このお方はあざけりの対象とられた。このお方は人にさげすまれ、拒まれた。墮落したアダムの息子娘たちを希望のない悲惨さから高め、救うために、侮辱と嘲笑に耐え、もつとも屈辱的な方法でもつとも苦痛に満ちた死に耐えられた。わたしたちの贖い主によってわたしたちのために表されたこの比類のない犠牲と神秘的な愛を見ると、わたしたちの全的な礼拝をこのお方から差し控えるのであろうか。それは最高を尽くしたところで非常に弱々しいものである。……

クリスチャンは自分たちの家族がエネルギーをすっかり使い果たし、そのため魂と体と思いと力を要求なさる神の礼拝にお捧げする活力が残らないほど働くように促すことを習慣としてはならない。もしあなたが自分という存在すべての力を自分自身の興味のために捧げてしまうとすれば、あなたは神に何をお捧げするのだろうか。それは不完全な犠牲ではないだろうか。……

自分の子供たちを教えるために用いるのは時間の良い使い方である。あなたは機械工、商売人、農夫でありながら、神のために生きた受け入れられる伝道者となることができる。あなたがたは自分の魂を尽くして、自分のご主人の働きに携わり、他の人々にあなたの光が照るようにすることができる。まず神の国と神の義を求めるために、主があなたを目覚めさせて下さるように、というのがわたしの祈りである。そうすればこれらすべてのことは与えられる。あなたはどのように神をためすのか。あなたは自分で備えることのできる備えをすべてしてきたのではないだろうか。あなたは自分が将来必要になると思うものを取り計らうために、遠い将来を見越してきたのではないだろうか。あなたは明日のことを考え、自分の救いを二の次にしてこなかったであろうか。あなたは永遠の事柄には一瞬も注意を向けず、自分の家族のための備えをしようと何年も先の将来を見ている。

しかし、主は何と仰せになるであろうか。「それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思わずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思わずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか」(マタイ 6:25) ……

ここに引用されたわたしたちの救い主の言葉には何のコメントもいらない。(ピュ・アンド・ハルト 1870 年 3 月 29 日)

新鮮な空気と日光

「光は快いものである。目に太陽を見るのは楽しいことである。」(伝道の書 11:7)

花を見たり、木から熟した実をつんだり、鳥の楽しい歌声を聞いたりすることは、とくに神経組織を元気づける効果がある。戸外の生活から、男も女も子供も、純潔で誠実な者になりたいという願いをもつようになる。自然の偉大な薬効のある資源がもつ、活気づけ、生き返らせ、命を与える特質によって、身体機能は強められ、知性は目覚めさせられ、想像力が刺激され、精神が活気づけられる。思いは神のみ言葉の美しさを感じるように整えられる。……

どんなに多くの絵画に飾られた壁であろうと、四方を囲まれた中にいるより、戸外にいる方が、病人にとってどれほどいいことであろう！(医事伝道 231,232)

野の花の美しさによって、〔病人の思い〕は、自分自身から、自分のうずきや痛みから気がそれ、自然から自然の神、すなわちこれほど豊かに自然界の美しさを備えて下さったお方へと目を向けるように導かれる。回復期にある患者は、木陰に横たわることができる。またもっと体力のある者は、望むなら、花々の中で働くことができる。最初はほんの少しずつ、それから、体力がつくにつれて作業を増やしていくことができる。庭で働き、花や実をつんだり、鳥が神に讃美しているのを聞いたりすると、患者はおどろくほど祝福を受ける。神の御使たちは彼らに近づく。彼らは自分たちの悲しみを忘れる。憂うつや意気消沈がなくなる。新鮮な空気と日光と運動をとると、彼らに命と活力をもたらす。弱った頭脳と神経はやわらげられる。(原稿別冊1巻 255,256)

自然は神の医者である。きれいな空気、晴れやかな日光、美しい花々や木々、果樹園やぶどう畑、これらの環境の中での屋外運動は、健康を与える一命の万能薬である。戸外生活は多くの病弱者が必要としている唯一の薬である。……

都市生活、多くのきらめく光、街路の騒音に慣れた病弱者にとって、田舎の静けさと自由はどれほど感謝なことであろう！(健康への勧告 170)。

9月10日

すばらしい水

「〔主〕は泉を谷にわき出させ、それを山々の間に流れさせ、野のもろもろの獣に飲ませられる。野のろばもそのかわきをいやす。」（詩篇 104:10, 11）

神の奇跡はいつも奇跡のような外面的なあらわれを伴っているとは限らない。しばしばそれらはあたかも自然な一連の出来事であるかのような方法でもたらされる。わたしたちが病人のために祈るとき、わたしたちはまた彼らのために働くのである。わたしたちは自分自身の祈りに、手に届く範囲の治療法を用いることによって、こたえるのである。賢明に用いるならば、水は最も強力な治療法である。（エレテッド・メッセージ 2 巻 346）

身体の不純物は、外に出ることができなければ、再び血液の中に取り込まれて、内臓に影響を及ぼす。自然は、自らを毒性の不純物から解放しようとして、体組織を自由にしようと努力する。この努力が熱を生じさせ、これが病気と呼ばれているのである。しかし、その時でさえ、もし苦しんでいる者が純粋な軟水を用いることによって、自然が努力する際に助けるならば、多くの苦しみを避けることができる。しかし、多くの人々はこうする代わりに、体組織から有毒なものを取り除こうとして、さらに多くの致命的な毒を入れ、すでにそこにある毒を取り除こうするのである。（エレテッド・メッセージ 2 巻 460）

多くの人々は、天の最大の祝福の一つを用いることを恐れて、有益な水の効果を一度も経験したことがない。燃えるような熱に苦しんでいる人に対して、水が彼らに害をなすのではないかとの恐れから与えられてこなかった。もし、熱が出ている状態のときに、自由に飲むよう彼らに水が与えられ、また外用としても用いられてきたなら、長い苦しみの日夜はなくてすみ、多くの尊い命が助けられたはずである。しかし、燃えるような熱で何千もの人が燃え尽きて死に、熱にそそがれた燃料がすっかり燃え尽きるまで重要な器官は消耗し、たいへんな苦しみの中で、燃える喉をいやす水を得ることが許されずに、死んでいったのである。（エレテッド・メッセージ 2 巻 453）

H兄弟……屋外で十分に運動することと、節制した食事があなたの健康にとっては必須である。あなたは一日二食以上食べるべきではない。もしも夜、食べなければならないように感じたら冷水を飲みなさい。そうすれば翌朝は、その前夜食していないために、ずっと気持ち良く感じるであろう。（食事と食物への勧告 162, 163）

必要とされている清潔

「心はすすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもつて信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。」(ヘブル 10:22)

もしすべての人が健康の法則に厳密に従うことによって、病気予防のために労するならば、多大な苦しみをまぬかれることができる。厳密な清潔の習慣を守るべきである。多くの人々は、元気な時に、健康状態を保つために手間をかけようとしな。彼らは個人的な清潔をなおざりにし、自分たちの衣服を注意深く純潔に保つことをしない。不純物はたえず気づかなくうちに毛穴を通して体から出ており、もし皮膚の表面が健康的な状態に保たれていないならば、体組織は不純物で重荷を負わされる。もし着ていた衣服をしばしば洗濯し、空気にさらさないならば、それは気づいても気づかなくても発汗によって体から捨て去られた不純物によって汚れる。そしてもし着ていた衣服がしばしばそれらの不純物から清められないならば、皮膚の毛穴はその捨てた排泄物を再び吸収する。身体の不純物は、外に出ることができなければ、再び血液の中に取り込まれて、内臓に影響を及ぼす。……

いくつもの家族が熱で苦しみ、ある者は死に、そして家族の輪の中で残った者たちは、自分たちを悲嘆にくれさせる死別のゆえに、自分たちの造り主に対してつぶやかんばかりであるが、実は彼らの病気と死のすべての原因はただ、彼ら自身の不注意の結果である。自分自身の家屋の周りにある不純物が彼らに伝染病をもたらし、彼らが神のせいに行っている悲しい苦悩をもたらしている。健康を重んじるすべての家族は、自分たちの家や敷地からすべての腐敗物を清めるべきである。

神はいかなる場合も自分自身や自分たちの衣服に汚れがあることを許してはならないとイスラエルの子らにお命じになった。なんであれ個人的な汚れのある人々は、夕まで宿営の外に締め出され、宿営に入る前に、自分自身と自分の衣服が清めることが要求された。また彼らは自分たちの家屋に汚れがあつてはならないと神から命じられていた。……

清潔に関して、神は昔のイスラエルに要求なさったのとまったく同様に、今もご自分の民に要求しておられる。(セレクトド・メッセージ 2 巻 460,461)

9月12日

万事における自制

「しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。」(コリント第一 9:25)

子供たちはしばしば、健康を考えずに、自分たちが食べたいものを食べたい時に食べる習慣にふける。赤ん坊の時から食通に教育される子供たちが大勢いる。食欲の放縱を通して、彼らは幼少のころより胃弱になる。自己放縱と食べることにける不節制は彼らの成長と共に成長し、彼らの強さと共に強くなる。精神的かつ身体的活力は両親の放縱を通して犠牲にされる。益どころか害しか受けない特定の食物に対する嗜好ができ、体組織は無理を強いられ、体質は虚弱になる。(教会への証 3 巻 489)

キリストがご自身の生涯によってどのように人が誘惑に抵抗することができるかを示すために、この地上に来られ、ご自分の天の家を去られたことによって払われた犠牲を真に自覚している人はみな、喜んで、自己を否定し、キリスト共にそのお苦しみにあずかる者となることを選ぶ。

主を畏れることは知恵の始まりである。キリストが勝利されたように勝利する人々は、たえずサタンの誘惑に対して自分自身を防御する必要がある。食欲と情欲は啓発された良心の支配下に制限されなければならない。それは知性が弱められず、知覚力が明晰で、サタンのわざとそのわなを神のみ摂理だと解釈することのないためである。多くの人々が勝利者に与えられる最終的な報いと勝利を望んでいる。しかし、彼らの贖い主のように、労苦や欠乏、自己否定に耐えようとしない。キリストが勝利されたように、勝利するのは、ただ服従と継続的な努力を通してのみである。

食欲の支配的な力は、何千もの人々の破滅となってきたが、もし彼らがこの点において征服していたならば、他のサタンのすべての誘惑に対して勝利を得るための道徳的な力を得たはずであった。しかし、食欲の奴隷である人々は、クリスチャン品性を完成させることに失敗する。(教会への証 3 巻 491,492)

治癒力のある信頼

「わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。」(詩篇 42:11)

あなたに欠けているのはイエスの霊である。あなたはそれを絶えずいだいていなければならない。そうすれば、困難が生じるときに、あなたはキリストのうちに隠され、いついかなる場合にもキリストの御霊をあらわすようになる。あなたは自分自身に対する同情や憐れみの情を促すべきではない。すべて自己はイエス・キリストのうちに隠されるべきである。そのとき、あなたは自分にとって最善が何であるかを知らない魂に対して心からの悲しみと憐れみを感じ、自分が受けたひどい取り扱いをみな忘れるのである。

わたしたちはこの事実をたえず思いに留めていなければならない。それはイエスのみ手をご自分に真心から従う一人ひとりに伸ばされていて、あなたを傷つけようと狙った攻撃の一つ一つは、あなたをおおうイエスのみ手を傷つけるのだということである。だから、あなたは自己をまったくなくしてしまわなければならない。自己をできる限りあなたの視野の外におきなさい。そしてあなたが非常に助け、救いたいと思っている人々に、あなたの言葉が受け入れられないのを見るとき、そのとき、あなたはキリストの許へ逃れて祈らなければならない。……

わたしたちはあるべきほどの五分の一も柔和でなく謙遜でない。(レ'ユー・ア'ンド・ハ'ルト 1887 年 3 月 29 日)

わたしたちが品性の自立と独立性を培うのは、自分自身に対して負っている義務である。しかし、この特質は柔和とへりくだりと混ぜ合わされなければならない。わたしたちは、多くの人々がするように自分自身の知恵と判断に信頼するとき、確実に恥と困惑に直面する道にいたのである。わたしたちが自分たちの品性の欠点に勝利することができるのは、神の恵みを通してのみである。しかし、わたしたちがそれらを制するために継続的な努力をしない限り、それらはますます強くなる。(サ'インズ・オブ・ザ・タイムズ 1884 年 6 月 5 日)

サタンはわたしたちとキリストの間に自らを差し挟もうとしている。しかし、わたしたちは信仰を語り、わたしたちを救うイエスのみ力を高めることによって、サタンを退けなければならない。わたしたちは遅滞なく、前へと歩を進めないのであらうか。わたしたちは光のうちに同様に闇のうちにあっても、わたしたちの救い主を信頼することを恐れてはいないことを示さないのであらうか (サ'インズ・オブ・ザ・タイムズ 1890 年 3 月 17 日)

9月14日

幸せな信仰には薬効がある

「心の楽しみは良い薬である、たましいの憂いは骨を枯らす。」(箴言 17:22)

思いと体の間に存在する共鳴は非常に大きい。一方が影響を受けるともう一方が反応する。思いの状態は身体的組織の健康に大いに関係する。もし、正しいことをしているという自覚と他の人を幸せにしてあげているという満足感の下で、思いが自由で喜ばしいならば、それは体組織全体に作用する快活さを生み出し、血液がもっと自由にめぐるようになり、体全体の調子を上げる。神の祝福は癒しであり、他の人を豊かに益する人々は、自分たちの心と生活のうちに驚くべき祝福に気がつくであろう。(教会への証 4 巻 60,61)

神の御霊の感化こそ、病気にとってごく最上の薬である。天はことごとく健康である。そして深く天来の感化を自覚すればするほど、信じる病弱者の回復はより確かになる。キリスト教の真の原則はすべての人の前に、はかりしれない幸福の源を開く。宗教は絶えざる水源であり、クリスチャンが意のままに飲んでも決して尽きることのない泉である。

思いと体の間に存在する関係は非常に密接である。一方が影響を受けるともう一方が共鳴する。思いの状態は身体的組織の健康に影響を与える。もし、正しいことをしているという自覚と他の人を幸せにしてあげているという満足感により、思いが自由で喜ばしいならば、それは体組織全体に作用する快活さを生み出し、血液がもっと自由にめぐるようになり、体全体の調子を上げる。神の祝福は癒しの力であり、他の人を豊かに益する人々は、自分たちの心と生活のうちに驚くべき祝福に気がつくであろう。

悪習慣と罪深い慣習にふけっていた人々が神聖な真理の力に屈服すると、心にその真理が適用され、麻痺していたかのようにであった道徳力がよみがえる。それを受ける人は、自分の魂をとこしえの岩に釘づける以前よりももっと強く明晰な理解力を持つ。彼の身体的健康でさえ向上する。(健康への勧告 28)

健康のために自らへりくだる

「自分を見て賢いと思ってはならない、主を恐れて、悪を離れよ。そうすれば、あなたの身を健やかにし、あなたの骨に元気を与える。」(箴言 3:7, 8)

兄弟よ、あなたは大いに学ばなければならない。あなたは、あなたの身体組織が健康な血液に変えることができる以上の食物を食べて食欲をほしいままにしているが、たとえその質が差し支えないものであっても、食べる量において不節制であることは罪である。多くの人々は、肉類や粗悪な食物を食べさえしなければ、単純な食物をそれ以上食べられないほど食べても良いと思っているが、これは誤りである。健康改革者と公言する多くの人々が、暴食家に他ならない。彼らは消化器にあまりに大きな負担をかけるので、組織の活力はこれを処理する努力のために消耗されてしまうのである。また、胃の働きを助けるために脳神経の力が要求されるために、知能を鈍らせる影響を及ぼす。過食はたとえ単純な食物であっても脳髄の敏感な神経を鈍らせ、その活気を弱める。過食は過労以上に身体

を害し、霊的な力は不節制な労働よりも不節制な食事によって更に多く失われる。(食事と食物に関する勧告 93)

神が特別に導き祝福なさる義人に要求されている自己否定、へりくだり、節制が、この墮落した時代に生きている人々のぜいたくや健康を破壊する習慣と対照的に、民に提示されなければならない。……

神は手が体に密接につながっているように、健康改革が第三天使のメッセージと密接につながっていることを示してこられた。身体的また道徳的墮落の原因として、この重要な主題の無視ほど大きな原因をほかのどこにも見出すことができない。食欲と情欲の放縱にふけり、自分たちが捨てたくないと思っている罪深い放縱を認めることを恐れて、光に自分たちの目を閉ざす人々は、神のみ前に有罪である。ある事情において光に背を向ける人はだれでも自分の心をかたくなにし、他の問題に関する光を無視するのである。飲食の問題において、道徳的義務を犯す人はだれでも、永遠の利益に関する神のご要求を犯す道を備えることになる。

わたしたちの体は、わたしたち自身のものではない (健康への改革 73)

9月16日

神の方法は健康を促進する

「わが子よ、わたしの言葉に心をとめ、わたしの語ることに耳を傾けよ。それを、あなたの目から離さず、あなたの心のうちに守れ。それは、これを得る者の命であり、またその全身を健やかにするからである。」(箴言 4:20-22)

神の律法への従順のうちに健康がある。

賢者は、知恵の「道は楽しい道であり、その道筋はみな平安である」と言っている(箴言 3:17)。多くの人々は神への献身が、健康や、人生の社交関係における幸福にとって有害だという印象をいだいている。しかし、知恵と聖潔の道に歩む人々は、「信心は、今のいのちと後の世のいのちが約束されてあるので、万事に益となる」ことを見出す(テモテ第一 4:8)。彼らは人生の真の喜びを享受して生き生きしており、その一方で世俗の人は、なにか興奮するような娯楽で気がまぎれないときには、あまりにも頻繁に無駄に過ごした時間に対する虚しい後悔や、思いの憂鬱さや恐れに悩まされるが、彼らにはそれがない。……信心は、健康の法則と衝突することなく、かえってそれらと調和している。人がつねに十誠に従順であったならば、……いま世界に洪水のようにあふれている病気ののろいはなかったのである。

神の是認の確証は、身体的な健康を促進する。それは、あまりにもしばしば生命力を奪い、神経的な病を誘発する疑いや困惑や過度の悲嘆に対して防備する。

正しいことをしているという自覚は、病んだ心身に対する最高の薬である。受ける者にとどまる神の特別の祝福は、健康と強さである。思いが静かに神のうちに満ち足りている人は健康への道にいる。主の目がわたしたちにとどまっており、このお方の耳がわたしたちの祈りに開かれているという自覚は、実に満足を与えるものである。わたしたちが決して信頼を裏切らない友なるお方に、魂のすべての秘密を打ち明けることができることを知るのには、言葉では決して表現できない特権である。

勇気、希望、信仰、同情、愛は、健康を促進し、命を延ばす。満ち足りた思い、快活な精神は、身体にとって健康であり、魂にとって力である。(信仰によってわたしは生きる 229)

健康の分野における偏見を克服する

「主は言われる、わたしはあなたの健康を回復させ、あなたの傷をいやす。それは、人があなたを捨てられた者とよび、『だれも心に留めないシオン』というからである。」(エレミヤ 30:17)

自分の患者を自然と彼らの病気の原因に関して啓発し、彼らにどのようにして病気を避けるかを教えるために努力する医者とは、骨の折れる働きをすることになる。しかし、もし彼が良心的な改革者であれば、飲食や衣服における放縱の破滅的な影響について、自分の患者を現在の状態にしてしまった生命力への過度の負担について率直に述べる。彼は疲れきった自然が苦闘をあきらめてしまうまで薬物を使用することによって悪を増し加えることなく、かえって患者にどのようにして正しい習慣を形成し、自然自身の単純な治療法を用いることによって、自然自らの回復の働きを助けるかを教える。(クリスチャンの節制と聖書の衛生 121)

ケログ博士、神はあなたに医師会の恩寵をお与えになった。そしてこのお方はあなたがそれを維持するようにと望んでおられる。しかし、いかなる場合もあなたは世の医者のように、逆症療法(対症療法)を他のどの方法にもまさるものとして持ちあげ、それらをみないんちき療法や誤りだと呼ぶ立場に立つてはならない。なぜなら、始めから現在に至るまで逆症療法の結果はもともと反対すべき成果を示してきたからである。あなたの治療院では、薬物を用いて、自然にその回復の働きをするチャンスを与えなかったために失命があった。薬物投与が人間の機械の力を破壊し、患者は死んだのである。他の人々は薬を持ちかえり、自然が体組織を回復するために用いる単純な治療法の効果を減じている。あなたの施設〔バトル・クリーク・サニタリウム〕の学生たちは、薬物を必要なものとして考えるように教育されてはならない。彼らは薬物には触らないように教育されるべきである。(原稿リース 16 巻 288,289)

健康改革に関する光を持っているすべての人は、自分たちの知性を実践に用い、そうすることによって健康改革に対する偏見を取り除くべきである。よくある病気の賢明な治療のために必要なものをそろえることは、神に祝福される。そして、単に実践することなく教えるよりもはるかに多くの益をもたらす。(原稿リース 20 巻 354)

9月18日

湿布処方

「そのころ、ヒゼキヤは病気になるて死にかかっていた。アモツの子預言者イザヤは彼のところにきて言った、『主はこう仰せられます、「家の人に遺言をなさい。あなたは死にます。生きながらえることはできません』』。そこでヒゼキヤは顔を壁に向けて主に祈って言った、『ああ主よ、わたしが真実を真心をもってあなたの前に歩み、あなたの目にかなうことをおこなったのをどうぞ思い起してください』。そしてヒゼキヤは激しく泣いた。……そしてイザヤは言った、『干しいちじくのひとかたまりを持ってきて、それを腫物につけさせなさい。そうすれば直るでしょう』。』（列王記下 20:1-3, 7)

神からの一言、神のみ手の一触れがヒゼキヤをただちに癒すのに十分であったことであろう。しかし、その代わりに、彼はいちじくの湿布をするように指示を受け、それを患部にはった。これがなされたとき、ヒゼキヤは健康に回復された。主が用いられるべきことを命じられこの処方を、わたしたちがしているよりもっと重んじるのがよい。(エレキッド・メッセージ 2 巻 301)

医師会では……ヒゼキヤのための主の処方をいんちぎ療法だと呼ぶことであろう。王に死が宣告されたが、彼は命を求めて祈り、彼の祈りは聞かれた。彼の世話をしていた人々はひとかたまりのいちじくを取ってそれを腫物の上におくように命じられた。そして王は癒された。この手段は神によって、彼らの調合はみな王から回復し病気を克服する力を奪っていることを教えるために取られた。彼らは自分たちの治療法を追及している間は、彼の命は救われ得なかった。主は彼らの思いを彼らのすばらしい神秘から自然の単純な療法へと転じた。これらの指示にはわたしたちすべての者のための教訓がある。(原稿別ス 16 巻 289)

もし目が弱ければ、もし目に痛みがあれば、あるいは炎症があれば、お湯と塩でしめらせたやわらかいフランネルの布が、すみやかに緩和してくれる。

頭がうつ血しているときに足や四肢を少しのからしを入れた湯船につけると、効果が得られる。

体に健康的な活動を回復するために大いに役立つ単純な療法がまだ多くある。すべてこれらの単純な処方を主はわたしたちが自分自身のために用いることを期待しておられる。しかし、人の窮地は神の好機である。(エレキッド・メッセージ 2 巻 297)

「エジプトびとに下した病を一つも」

「あなたが、もしあなたの神、主の声に良く聞き従い、その目に正しいと見られることを行い、その戒めに耳を傾け、すべての定めを守るならば、わたしは、かつてエジプトびとに下した病を一つもあなたに下さないであろう。わたしは主であって、あなたをいやすものである。」（出エジプト記 15:26）

主は昔のイスラエルに、もし彼らがまったくご自分とご自分のすべてのご要求に忠実であるならば、彼らをエジプト人に下したようなすべての病から彼らは守られるのであった。しかし、この約束は、従順という条件に基づいて与えられた。（教会への証 9 巻 165）

神の恵みはいつも改革的である。人類一人びとりは有害な習慣をやめて、自分のために何ができるかという知識を得るために学ぶ学校にいる。これらの事柄を無視する人々、呼吸するための清い空気や飲むための清水を得ることに関して予防策を取らない人々は、病気にかからないわけにはいかない。彼らの体組織は汚れ、人間の体構造は損なわれる。……

知識は彼らの道沿いにまかれているが、彼らは神に頼っているのだと言いながら、光線を集めることを拒否する。しかし神は、ご自分が彼らにさせるために残されたこれらのことをなさるであろうか。このお方は彼らの怠慢を埋め合わせて下さるであろうか。このお方は彼らの故意の無知を見過ごされ、用いるならば健康をもたらす最も単純な手段を彼らが無視しているときに、魂と体と霊を回復することによって、彼らのために大いなることをなして下さるであろうか。日々彼らが病気をもたらすものを食べることによって、自分たちの食欲にふけっているときに、彼らは主が自分たちを回復するために奇跡を働くことを期待できるであろうか。これは主の働かれる方法ではない。（医事伝道 226）

神の愛の証拠を知る人々、このお方の律法の知恵と有益性、また従順の結果である祝福について何か理解する人々は、自分たちの義務と責務をまったく違った視点から見ようになる。健康の法則の遵守を犠牲か自己否定であるかのように見る代わりに、彼らはそれを、実際そうであるとおり、はかりしれない祝福だとみなすのである。（クリスチャン節制と聖書の衛生）

9月20日

偉大な癒し主のために証言する

「わがたましいよ、主をほめよ。そのすべてのめぐみを心にとめよ。主はあなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいやし」(詩篇 103:2, 3)

バプテスマのヨハネは一生の働きのための訓練を、ラビの学校ではなく荒野で、ただ神とこのお方とだけで受けた。彼が祈ると、聖書が彼の前にすばらしい方法で開かれた。そして今日まったく同様に、神は上より来る知恵を謙遜に求めるすべての人に教えたいと思っておられる。……

わたしたちには実際的な価値はない主題を研究するために何年も過ごす時間はない。わたしたちは、自分たちがすべての科学において知識の最上位に上りつめなければならないと考えるべきではない。時は短い、だから、わたしたちは魂を救うために熱心に働かなければならない。もしわたしたちが神のみ言葉を信じ、それを勤勉に祈りをもって研究するならば、自分たちの必要としている光と知識を見出す(説教と講和 1 巻 394)

かつて、わたしたちに一つも治療院がなかったとき、わたしの夫とわたしは医事伝道の分野で働き始めた。わたしたちは医者に死ぬと見はなされた患者を自分たちの家に連れて行ったものである。わたしたちが彼らにどうしてよいかわからなかったときは、最も熱心に神に祈った。そうするとこのお方は必ずご自分の祝福を送って下さった。このお方は力ある癒し主であられ、わたしたちと共に働いて下さった。わたしたちは一度も医学課程を学ぶ機会はなかったが、神の畏れのうちに動き、一步ごとにこのお方に知恵を求めたとき、成功した。これがわたしたちに主にある勇気を与えた。

こうして、わたしたちは祈りと働きを結びつけた。わたしたちは単純な水治療を用い、それから患者の目を偉大な癒し主に留めさせようと努力した。わたしたちはこのお方が彼らのために何がおできになるかを話した。もし患者に希望を吹き込むことができれば、これは彼らにとって大いに優位となる。わたしたちの治療院に関わって働くすべての人に無限のお方の力をしっかりとつかんでほしいと思う。わたしたちはこのお方とこのお方のみ言葉の力を信じる。わたしたちが病人の回復のために最善を尽くすとき、わたしたちがこのお方の救いを見ることができるよう、このお方にわたしたちと共にいて下さることを求めることができる。わたしたちは世界を治めるみ手の力にあまりにも信頼を置いていない。(福祉伝道 325,326)

主人のみ足の跡を

「日が暮れると、いろいろな病気になやむ者をかかえている人々が、皆それをイエスのところに連れてきたので、そのひとりびとりに手を置いて、おいやしになった。」
(ルカ 4:40)

主の再臨のために民を準備するにあたり、健康の原則の宣布を通して偉大な働きが成し遂げられなければならない。民は身体組織の必要と、聖書に教えられている通りの健康的な生き方の価値に関して教えられるべきである。こうして神が創造して下さった体を生きた供え物としてこのお方に差し出し、神に喜ばれる礼拝をお捧げするのにふさわしくなるためである。苦しむ人類のために神が備えて下さった自然の手段を用いることによってその苦しみを和らげ、また食欲と情欲を律することによって、どのように病気を予防するかを教えることによってなされるべき大きな働きがある。民は自然の律法の違反は、神の律法の違反であることを教えるべきである。彼らは身体的にも霊的にも「主を恐れることは人を命に至らせ」という真理を教えられるべきである(箴言 19:23)。……

わたしたちは身体の健康と魂の救いの両方のために労しなければならない。わたしたちの使命はわたしたちの主人であるお方と同じである。このお方については、よい働きをしながら、また悪魔に押えつけられている人々をことごとくいやしながら、巡回されたと記されている。(教会への証 6 巻 224, 225)

医事伝道の働きにおけるほど輝かしく真理が輝いている他の働きの分野はない。すべての真の医事伝道者は、病んだ体のための治療と同時に罪に病んだ魂のための治療法を持っている。キリストを信じる信仰によって、彼は伝道者として、あわれみの使命者の役目を務めなければならない。彼が身体的な苦痛を癒すために、神に備えられた単純な治療法を用いるとき、彼は魂の病気を癒すキリストの力について語るのである。(医事伝道 39)

魂の癒しを求める偉大な医者への祈りは、神の祝福をもたらす。祈りはわたしたちを互いに、そして神に結びつける。祈りはイエスをわたしたちの側に連れて来て、弱り困惑している魂に新しい力と新鮮な恵みを与える。祈りによって、病人は神が同情をもって自分たちを見て下さると信じるよう励まされてきた。一筋の光が無力な魂へと貫き、命から命へ至る香りとなるのである。(レビュ・アンド・ヘラルド 1900 年 10 月 30 日)

癒す言葉

「つるぎをもって刺すように、みだりに言葉を出す者がある、しかし知恵ある人の舌は人をいやす。(箴言 12:18)

軽率で感情的で不注意な言葉によって、一瞬の間に一生後悔しても取り返しのつかない不幸が引き起こされることがある。助けといやしをあたえるべきところに軽率で冷酷な言葉を出したばかりに、どんなに人の心が傷つき、友だち同志が離反し、一生がだいなしになってしまうことであろう。(教育 279)

満ち足りた思い、快活な精神は体にとって健康であり、魂にとって力である。意気消沈、憂うつ、悲しみほど病気をもたらす原因はない。(教会への証 1 巻 702)

神は、わたしたちが、困っている人びとに、贈り物をするだけでなく、快活な顔をして希望にあふれたことばを語り愛のこもった親切な握手をすることを求めておられる。キリストは、病人をおいやしになったときに、人びとの上に手をおかれた。そのように、わたしたちも助けようとする人びとに近く接触しなければならないのである。

世の中には、希望を失っている者が多い。彼らに、太陽の光を取りもどしてやろう。勇気のくじけた者が多い。彼らに、励ましのことばを語り、彼らのために祈りをささげよう。命のパンが必要な者もある。彼らには、聖書を読んで聞かせよう。地上の医者や薬では癒されない心の病に苦しんでいる者もある。わたしたちはそのような人のために祈り、イエスのところへ連れて来よう。そして、ギレアデには、乳香があり、そこに医者がいることを知らせよう。(キリストの実物教訓 393,394)

わたしたちは病床の傍らに、苦しむ人類の傍らに、貧困に打ちのめされ悩むあばら家にイエスの足跡を見出す。わたしたちはこのみ足の跡に歩み、苦しむ人を慰め、落胆した人に希望と慰めを語ることができる。イエスが地上におられたときになさったとおりによって、わたしたちはこのお方の祝福されたみ足の跡を歩むのである。(健やかな生涯 278)

〔イエス〕は、倦むことのない優しさと親切をもって、あらゆるかたちの人間の苦悩と苦しみに対処された。ご自身のためではなく、他の人々のために、このお方は労された。このお方は自らご自分を低くされ、ご自分を否定された。このお方はご自分を区別されたものにしようとされなかった。このお方はすべての人の僕であられた。日々ご自分が接触する他の人々の安堵と慰めになること、悲しみ、重荷を負っている人を喜ばせることが、このお方の食べ物であり、飲み物であった。(医事伝道 19,20)

こちよい言葉の力

「こちよい言葉は蜂蜜のように、魂に甘く、からだを健やかにする。」(箴言 16:24)

親切と同情の言葉は薬のように効果があり、絶望のうちにいる魂を癒す。実生活に持ち込まれた神の言葉の知識は、癒し、和らげる力がある。言葉の厳しさは自分自身にも他の魂にも決して祝福をもたらすことはない。(福音宣伝者 163,164)

わたしたちは自分たちの言葉や気質を制御しない限り、サタンの奴隷である。彼の支配下にいるのである。彼はわたしたちを虜にして導く。このやかましい、不快で、短気な、いらだった言葉はみな、彼の悪魔的な権威に差し出された捧げ物である。そして、それは高価な捧げ物であり、わたしたちが神にお捧げするどんな犠牲よりも高価である。なぜなら、それは家族全体の平安と幸福を破壊し、健康を破壊し、そしてついには、幸福な永遠の命を失う原因となるからである。神のみ言葉の抑制は、わたしたち自身の利益のために課されている。それはわたしたちの家族と周囲のすべての人の幸福を増す。それはわたしたちの嗜好を精練し、わたしたちの判断を聖化し、思いの平安と、そしてついには永遠の命をもたらす。この聖なる抑制の下に、わたしたちは恵みとへりくだりのうちに成長し、正しく話すのが容易になる。生来の感情的な気質は制せられる。内住する救い主は、一時間ごとにわたしたちを強めて下さる。仕える天使たちは、わたしたちの住まいに長くとどまり、喜びと共にわたしたちが神聖な生活において前進しているという知らせを天へ伝える。そして記録の天使は、喜ばしい幸福な記録をつけるのである。(教会への証 1 卷 310)

キリストの義の武具をつけていなさい。こちよい言葉、忠実な看護、苦しみを和らげようとする願いは、決して失望させることのない癒しの源、すなわち失われ墮落した人類のために贖いの代価を支払うために死なれたお方へと思いを向けさせる道を勝ち取る。敵は門まで攻め寄せて来るであろうが、武具をまもっていなさい。(クリス・コレクション 31)

非常に困難の中に人生の戦いを戦っている人は、ちょっとした愛の行為によって力づけられ、励まされる。こういう人にとっては、真の友人からの力強い助けの手は金や銀よりも尊く、親切な言葉は天使の微笑のようにうれしいものである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 130,131)

9月24日

奇跡的な力

「ペテロが〔施しを求めていた足のきかない男に〕言った、『金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい』。こう言って彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって」(使徒行伝 3:6, 7)

大いなる力をもって、弟子たちは、十字架にかけられよみがえられた救い主を宣べ伝えた。彼らは、イエスの名によって、しるしと奇跡を行った。病人はいやされた。生まれながらの足なえが完全な健康を回復し、すべての人々の前で、あるき回ったり踊ったりして神を賛美しながら、ペテロとヨハネと一緒に宮にはいつて行った。この知らせが広がって人々は、弟子たちの回りに押しかけてきた。多くの人々が走り寄ってきて、行われたいやしのわざを見て、大いに驚いた。

祭司たちは、イエスが亡くなったときに、もう奇跡は、彼らの間で行われることなく、興奮もさめて、人々はふたたび人間の言い伝えにかえってくるものと思った。ところが、どうであろう。弟子たちは、彼らのまっただ中で、奇跡を行い、人々は、驚きに満たされている。イエスは十字架にかけられたのに、彼の弟子たちは、一体どこからこの力を得たのだろうか、彼らは不思議に思った。彼が生きていた時には、彼が彼らに力を与えたのだと彼らは思っていた。彼は、もう死んでしまったのであるから、奇跡もそれで終わるものと彼らは予想していた。(初代文集 324,325)

ユダヤ人たちは弟子たちがイエスと同様の奇跡を行うことができることに驚愕した。彼らはイエスが死なれたので、このような驚くべき現れはみなこのお方と共に止むものと思っていた。しかし、ここに四十年間足がきかず治る見込みのなかったこの男が自分の四肢を存分に用いて喜び、痛みもなく、イエスを信じて幸福を感じている。

使徒たちは人々が驚いているのを見て、彼らになぜ彼らの目撃した奇跡にそれほど驚き、彼らのしたこのことが、あたかも彼ら自身の力を通してなされたかのよう、に恐れをもってみているのかと尋ねた。ペテロはそれがナザレのイエス、すなわち彼らが拒み、十字架につけたが、神が三日目に死からよみがえらせたお方の功績を通してなされたのだということを彼らに保証した。(預言の霊 3 巻 276,277)

今日、キリストと協力する

「〔ペテロは言った、〕イエスの名が、それを信じる信仰のゆえに、あなたがたのいま見て知っているこの人を、強くしたのであり、イエスによる信仰が、彼をあなたがた一同の前で、このとおり完全にいやしたのである。」(使徒行伝 3:16)

イエスがご自分の奇跡を働かれた方法と、このお方の弟子たちのそれとは非常に異なっていた。このお方の言葉はご自身のうちにある力を所有しておられるお方としての言葉であつた。「きよくなれ」、「平安あれ」。またこのお方は、あたかもご自分の奇跡がご自身の力によって、ご自分の栄光のためになされなかったかのように、これらの機会にご自分に捧げられた誉れを受けることをためられることも、人々の思いをご自身からそらそうともなさることもなかった。しかし、弟子たちはただイエスのみ名によってのみ奇跡を行つたのであり、わずかといえど誉れを自分自身に受けることを拒んだ。彼らはユダヤ人が十字架につけたが神がよみがえらせ、ご自分の右に高められたイエスの器にすぎないと主張した。このお方こそ、すべての誉れと讃美を受けなければならなかった。(預言の霊 3 巻 277)

ある人はわたしに「なぜわたしたちに治療院が必要なのですか。なぜわたしたちは、キリストのように、病人のために、彼らが奇跡的に癒されるように祈らないのですか」とたずねた。わたしは、「わたしたちがすべての場合にそれをなすことができるとしたら、何人の人がその癒しを感謝するでしょうか。癒された人々は健康改革者になるでしょうか、あるいは健康破壊者でい続けるでしょうか」と答えた。

イエス・キリストは偉大な癒し主であられる。しかし、このお方はご自分の律法と調和して生きることによって、わたしたちが健康の回復と維持においてご自分と協力するように望んでおられる。癒しの働きと結合して、彼らはどのように誘惑に抵抗するかという知識を与えることがなくてはならない。治療院に来る人々は、真理の神と調和して働く自分自身の責任感に目覚めるべきである。

わたしたちは癒すことができない。わたしたちは体の病気の状態を変えることはできない。しかし、医事伝道者として、神との共労者として、このお方が備えられた手段を用いることがわたしたちの分である。それから、わたしたちは神がこれらの手段を祝福して下さるように祈るべきである。わたしたちは神を信じる。わたしたちは祈りを聞き、答えて下さる神を信じるのである。(医事伝道 13)

9月26日

癒しのための信仰

「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。」(ヤコブ 5:14, 15)

多くの人々がわたしの語るのを聞き、わたしの読み物を読んだが、だれもわたしが奇跡を働くと主張するのを聞いた人はない。わたしはときに病人のために祈るために呼ばれて、主のみ言葉が立証されてきた。〔ヤコブ 5:14,15〕。キリストが奇跡を働かれる偉大なお方である。このお方にすべての栄光を帰せよ。

キリストが働かれた方法は、み言葉を宣布し、癒しの奇跡的な働きによって苦しみを和らげることであった。しかし、わたしたちは今この方法では働くことができないことを教えられた。なぜなら、サタンが奇跡を働くことによって自分の力を行使するからである。神の僕たちは今日、奇跡という手段によって働くことはできない。なぜなら、神のものと主張して、偽の癒しの働きがなされるからである。

この理由により、主はご自分の民が、み言葉の教えと結合させる身体的な癒しの働きを進めるべき方法を明らかにしてこられた。そしてこれらの施設は、純粹な医事伝道の働きを進める働き人たちと結びつくべきである。こうして防護する感化力が治療のために治療院に来る人々の周りを取り囲むのである。

これが多くの魂のためになされるべき福音の医事伝道の働き的手段として主が備えられたことである。

過去の苦悩と天の栄光が混ぜ合わされるときに地上に生きる神の民の経験をいくぶんでも考えることは不可能である。彼らは神のみ座から出る光のうちを歩む。御使たちという手段によって、天地の間には絶えず交信がある。そしてサタンは悪天使たちに囲まれて、神だと主張しながら、選民をも欺こうとあらゆる種類の奇跡を働くようになる。神の民は奇跡を働くことに自分たちの安全を見出すことはない。なぜなら、サタンはなし得る限りの偽の奇跡を働くからである。(ℳケッド・メッセージ 2 巻 54,55)

病人のために祈る

「だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互のために祈りなさい。」
(ヤコブ 5:16)

過失が改められたとき、わたしたちは聖霊のお示しのままに冷静な信仰をもってその病人の要求を神に訴えることができる。神は各人の名を知っておられ、この地上に神がみ子をおあたえになったのは、ほかならぬその人のためであるかのように各自を心にとめておられる。神の愛は非常に大きく、非常に確実であるから、病人は神に信頼し、喜びを持つように励まさなければならない。身体のことを心配するのはかえって身体を弱らせ病気を招く。病人が陰鬱に打ち勝つならば、回復の見込みが増大する。「主の目は主を恐れる者の上にあり、そのいつくしみを望む者の上にある」からである(詩篇 33:18)。

病人のため祈るときは「わたしたちはどう祈ったらよいかわからない」ことを覚えなければならない(ローマ 8:26)。わたしたちが望む祝福が最上のものか否かはわからない。したがって、わたしたちの祈りには次のような気持ちがなければならない。「主よ、あなたは魂のすべての秘密を知り、これらの人々をよく知っておられます。この人々の仲保者であるイエスは彼らのためにその生命をおさげになりました。彼らに対するイエスの愛はわたしたちが彼ら愛するよりもずっと大きいものです。もし主の栄えとなり、病人の益となるならば、健康が回復するよう、イエスのみ名によってお願い申しあげます。もし回復することがあなたのみ旨でなければ、苦しいときにあなたの恵みが彼らを慰め、そば近くにあなたがおられまして、彼らをささえてくださるようお願い申しあげます」。

神は始めから終りまですべてを知り、あらゆる人の心を熟知しておられる。神は魂の中にあるいっさいの秘密を読み、祈ってもらっている人が生き長らえるとき、その上にきたる試練に耐えられるか否かをご存じである。またその人の生涯は彼ら自身にとっても、社会にとっても祝福となるか、それとものろいとなるかを知っておられる。わたしたちが熱心に祈りをささげるとき「しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と言わなければならない理由の一つがここにある(ルカ 22:42)。……

神のみこころに従って求めるならば、神はおききあげになるということをわたしたちは知っている。それなのに神にゆだねる気持がなく、あまりくどく求めるのはよくない。わたしたちの祈りは命令の形でなく、懇願の形でなければならない。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 206～208)

9月28日

体を服従させる

「すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。」(コリント第一 9:27)

もしパウロが不節制から生じる危険のうちにいたとすれば、わたしたちはさらに大きな危険のうちにいる。なぜなら、わたしたちは神のものである自分たちの体と霊においてこのお方に栄光を帰す必要性を彼ほど、感じていても悟ってもいないからである。食べすぎはこの時代の罪である。(教会への証 4 巻 454)

人に説教してきた人々の中である者は、自分自身がクリスチャン品性を完成させてこなかったために捨てられるであろう。彼らは自分たちの働きにおいて、魂を救わなかったし、自らの魂でさえ救うことに失敗した。彼らは自分を知ることと自制の重要性を悟っていない。彼らは自分たちが誘惑に陥らないために見張らず、祈っていない。もし彼らが見張っているならば、彼らは自分たちが最も誘惑に攻撃されやすい弱点を知るようになる。見張り、祈ることによって、彼らの最も弱いところは、彼らの最も強いところとなるように守ることができる。そして、彼らは打ち負かされることなく誘惑に立ち向かうことができる。……ほとんどすべての人が、自己吟味を怠っている。(教会への証 2 巻 511)

もしも、キリストの弟子であると公言する者がみな、真に清められるならば、彼らの財産は、無用で有害な道楽のために費されるかわりに、主の金庫に おさめられ、キリスト者は、節制と克己と自己犠牲の模範となるであろう。そのとき彼らは、世の光となるのである。

世界は、あけて放縱に陥っている。「肉の欲、目の欲、持ち物の誇」が大多数の人々を支配している。しかし、キリストの弟子たちは、より聖なる召しを受けている。(各時代の斗争闘下巻 205)

み摂理は、神の民が世界の浪費の習慣から、食欲と情欲の放縱から、自分たちの立場を自己否定と万事における節制という土台におくように導いてきた。神が導いておられる民は特別な民となる。彼らは世とは似ていないものとなる。かえって、もし彼らが神の導きに従うならば、彼らは神のご目的を果たし、自分たちの意志を神のみ旨に明け渡すのである。キリストが心のうちに宿られる。神の宮は聖なるものとなる。(健康への勧告 74)

ほとんど知られていない健康の秘訣

「わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これを着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ」(イザヤ 58:6-8)

善を行うことは病気のためのすばらしい治療法である。(レビュー・アンド・ヘラルド 1881年8月16日)

人類のための無我の奉仕のうちに自らを神に明け渡す人はみな、栄光の主と協力している。この思想は、すべての労苦を快いものとし、意志を支え、何が起こってもそれに対して精神に勇気を与える。無我の心で働き、キリストの苦しみにあずかる者となることによって高められ、このお方の同情にあずかりながら、彼らはこのお方の喜びの知らせが盛り上がることを助け、このお方の高められたみ名に栄誉と讃美を帰す。神と、キリストと、聖天使たちとの交わりのうちに、彼らは天の雰囲気に入れられ、雰囲気が体に健康を、知性に活力を、そして魂に喜びをもたらすのである。

体と魂と霊を神の奉仕に捧げるすべての人は、絶えず新しい身体的、精神的、霊的力の資質を受けるようになる。天の無尽蔵の供給は彼らの意のままである。キリストはご自身の霊から息と、ご自身の命から命を与えて下さる。聖霊は心と思いのうちに働くためにその最高のエネルギーを出して下さる。(福音宣伝者 513)

あなたが勇氣と忍耐力に満ちて、たえず自己否定を表し、神のために固く立つとき、天から御使たちが、この〔カリフォルニアのフェマンド〕学校のうちに来てくれる。彼らはあなたを守ってくれる。あなたが神の戒めを守るので、あなたの健康は神の御目に尊いものとなる。(説教と講和 1巻 330)

主はあなたに神聖な委託物としてあなたの命をお与えになった。病人を訪ねなさい。貧しい者や悲しんでいる者を慰め、彼らに憐れみ深い贖い主について語りなさい。この働きはあなたに体の健康と心の平安をもたらす。あなたの顔つきは無我の奉仕の報いとしてもたらされる喜びを反映するようになる。(ユース・インストラクター 1902年2月13日)

9月30日

その家にだれが住むか？

「イエスは十二弟子を呼び集めて、彼らにすべての悪霊を制し、病気をいやす力と權威とをお授けになった。また神の国を宣べ伝え、かつ病気をなおすためにつかわして」(ルカ 9:1, 2)

数年前に、前回南部に訪問した際、長い車中で、わたしはときどき通り過ぎているこれらの家に住んでいるのはだれかと尋ね、南部の大きめの家々の多くには、大きな地位を占める重要な責任を担った人々が住んでいることを知った。さらに尋ねて、わたしはだれ一人これらの人々の前に命の言葉を伝えようとしたことがないことを知った。だれも聖書を手に持って彼らのところに行き、「あなたのために貴重なものがあります。そしてぜひこれを聞いていただきたいのです」と言った人はいなかった。いま、わたしの前にくり返し、これがなされなければならない働きの分野であることが提示された。わたしたちは大路やかきねに出て行って、キリストがわたしたちに下さった真理のメッセージを人々に伝えなければならない。わたしたちは多くの人を無理やりに連れてこなければならない……

主はすべての水のほとりにまくために、ご自分の民に伝道の働きの様々な分野に取りかかるように召しておられる。わたしたちは自分たちの隣人や友人の間で、このお方がするようにと望んでおられる働きのわずかな部分しかしていない。貧しい人、病人、あるいは死別した人への親切によって、わたしたちは彼らへの感化力を得ることができる。こうして神聖な真理が彼らの心へ届く道を見出す。このような奉仕の機会の一つも活用せずにやり過ごしてはならない。これはわたしたちができる最高の伝道の働きである。愛と同情のうちに真理を戸別に提示することは、キリストがご自分の弟子たちを始めの伝道旅行に送りだされたときの指示と調和している。(福祉伝道 72-74)

主が、今教会に取りかかるようにと召しておられるわたしたちの最も手近にある働きがこれである。わたしたちは「だれがわたしの隣人か」と言って立ってはいはならない。最もわたしたちの同情と助けを必要としている人がわたしたちの隣人であることを覚えていなければならない。……境界線も、人工的な区別も、身分制度も、上流階級もない。(教会への証 6 巻 294)

わたしたちの民の中でさらに何千人もの人に、わたしたちが生きている時代と現場や戸別訪問でなされるべき働きについての自覚があればよいのだが。(ビュー・アンド・ワールド 1903 年 6 月 2 日)

無知な者への憐れみ

「町の中から死のうめきが起り、傷ついた者の魂が助けを呼び求める。しかし神は彼らの祈を顧みられない。光にそむく者たちがある。彼らは光の道を知らず、光の道にとどまらない。」(ヨブ 24:12, 13)。

光を持っていない異邦人への神のテストは、真理と光の知識が豊かに与えられている者へのテストとは全く違う。このお方は、キリスト教国の者が捧げる場合には満足なさらない義の一面を、異教徒の国の者からの場合はお受けになる。このお方は多く与えておられないところに多くを要求なさることはない。(バイル・コメント [E.G. 初版コメント] 5 巻 1121)

わたしたちは神のみ旨を行うという義務の下にいる。救い主はわたしたちのために働いておられ、天の宮廷でわたしたちのために絶えずとりなしをしておられる仲保者であられる。今にも滅びるばかりの者の叫びは、このお方の耳へ速やかに届く。「彼は乏しい者をその呼ばれる時に救い、貧しい者と、助けなき者とを救う」(詩篇 72:12)。わたしたちはこのお方が示して下さいた分野でこのお方のために働かないのであろうか。過ちを犯している人々に対し、キリストのような仲保者ではないのであろうか。

キリストは誘惑され、苦しまれた。それゆえサタンが滅ぼそうとしている誘惑された者にいつも同情なさる。このお方はあわれみ深く忠実な大祭司となることができ、すべてのことにおいてご自分が助けにいられた人々と同じようになられた。このお方は無知な者、道からそれている者に同情された。なぜならこの地上におられるときご自分は弱さに取り巻かれておられたからである。このお方はわたしたちが困惑のうちにあるとき助けることがおできになる。このお方がわたしたちのために働かれるように、わたしたちも互いのために働こう。仲間の働き人がわたしたちを完全に信頼するような方法で行動しつつ、彼らのために主の愛を表そう。

多くの者はわたしたちが想像する以上に、自分たちに差し出される助けの手を必要としている。思いやりと同情の言葉が渇く魂への一杯の冷たい水のように感じる者が多くいる。あなたは疲れ、失望している同胞を世話することによって、キリストに奉仕しているであろうか。キリストは愛とあわれみのうちにわたしたちを助けてくださる。わたしたちは他の人々に希望と勇気の言葉を語ることによって、彼らにこのお方の恵みを与えないのであろうか。(パシフィック・エニオン・レコーダー 1902 年 3 月 13 日)

10月2日

すべての者を祝福するための知識

「わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨てて、わたしの祭司としない。あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる。」(ホセヤ 4:6)

神は尊い光が出版物の中で明らかになるようにされたので、どの家族もこれらを所有し、読むべきである。両親がた、あなたがたの子供たちは天から与えられた光と正反対に進む危険があるのだから、それらの本を買うだけでなく、読むべきである。なぜなら、それらはあなたがたと子供たちにとって祝福となるからである。あなたがたは隣人に預言の霊を貸し、彼ら自身のために書物を買うようにと勧めるべきである。神のための伝道者であるあなたがたは、熱心で活動的な力強い働き人でなければならない。

多くの者は、神がご自分の民に与えておられる光と正反対に進んでいる。なぜなら彼らは注意、譴責、警告のうちに光と知識を含んだ書物を読まないからである。世の煩い、流行への愛、宗教の欠如が、神が恵み深くも与えてくださった光から注意をそらし、その一方で間違いを含んでいる書物や雑誌が国中を巡っている。無神論と不信仰があらゆるところに増えている。神の御座から来ている非常に尊い光は、柵の下に隠されている。神はこの怠慢に対してご自分の民に責任ありとされる。神がわたしたちの道に輝かしておられる光の光線一つ一つに対して、神に報告がなされなければならない。すなわち、物事においてわたしたちの向上のために生かしてきたか、あるいは傾向に従う方が楽なためにそれを拒んできたかのいずれかである。(教会への証 4 巻 390,391)

神の警告になんの注意をも払わずに見すごしてよいであろうか。奉仕の機会を活用しないでよいであろうか。世のあざけり、理性の誇り、人間の慣習や言い伝えの尊重などのために、キリストの弟子と公言する者がキリストに対する奉仕をしないでよいであろうか。キリストの弟子であると公言する者は、ちょうどユダヤの指導者たちがキリストを拒んだように神のみことばを拒むのであろうか。イスラエルの罪の結果は、わたしたちの前に明らかにされている。今日の教会は警告に従うであろうか。(キリストの実物教訓 286)

わたしたちは、まず真理の原則をへりくだった心で受け入れ、完全な従順のうちにそれらを成し遂げつつ、自分自身に注意を払うべきである。これが喜びと平安をもたらす。(教会への証 7 巻 270)

み言葉が責めることは何でも避ける

「耳をそむけて律法を聞かない者は、その祈でさえも憎まれる。」(箴言 28:9)

サタンはキリストに従う一人びとの信仰を破壊しようとする。ある者にはほえたけるししのおとずれ、他の者には天使の衣を着て現れ、その声は抑えられてこの上なく優しいささやきである。わたしたちの唯一の安全は揺らぐことのない信仰をもって神のみ言葉にすがりつき、み言葉が責めることは、何であつてもそれが外見上どれほど喜びを与えるものであつても、どれほどもつともらしい見せかけであつても即座に断固として避けることによる。

常に弱く、常に落胆する自称クリスチャンがいる。彼らは絶えず疑いに悩まされることを許し、自分たちは常にこの状態のままでいなければならないと考えているかのようである。このような人々は自分たちの危険に気づいてサタンのわなから抜け出す努力をするなら自由になることができる。彼らに自分の疑いを口に出すのを止めさせなさい。どの不信仰な言葉も疑いへの傾向を強め、他の人の思いに悪い種を植え付ける。わたしたちが蒔くものを選ぶと何であつてもそれを刈り取らなければならない。もし農夫が麦を蒔くなら、彼は麦を刈り取る。もし彼がアザミの種を蒔くなら彼の収穫はアザミだけになるのである。……

神は決して不信仰の言い訳をすべて取り除かれることはない。自分の疑いをつるすために留め金を探す人々はそれらを手近に見つける。信仰を鼓舞するよりは疑いを暗示するほうがはるかにたやすい。なぜなら生来の心は神に恨みを置いており、至高者のみ言葉を疑うよりは信じる方がより大きな努力を要するからである。そしてサタン自身が信仰を強めようとするものはなんであつても反対するからである。

疑いから自由になることを本当に願っているすべての者が追い求めなければならない一つの道がある。彼らは神のみ言葉によって禁じられている何かの放縦を大事にしているか、あるいはみ言葉に課せられている何かの義務を怠っている。自分が暗闇の中を歩いているとつぶやく者に、彼らの上にすでに輝いている光を心に留めさせよう。そうすれば彼らはもっと大きな光を受けるようになる。彼らがはつきりと理解しているどの義務も彼らにさせなさい。そうすれば彼らは今疑っていることを理解し、行うことができるようになる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年6月8日)

10月4日

み言葉は真の交わりを鼓舞する

「神と交わりをしていると言いながら、もし、やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を行っているのではない。しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。」(ヨハネ第一 1:6,7)

もし神の民がこのお方のみ言葉を感謝するなら、わたしたちはここ地上の教会の中に天国を持つべきである。クリスチャンはみ言葉を探ることに飢え渇き、熱望するであろうに。彼らは聖句と聖句を比べ、み言葉を瞑想することをいつも切望しているであろうに。新聞や雑誌、あるいは小説よりもみ言葉の光をもっと熱心に求めるであろうに。彼らの最大の願いは神の御子の肉を食べ血を飲むことであるだろうに。そして結果として彼らの生活はみ言葉の原則と約束に一致するものとなるであろうに。その教えは彼らにとって命の木の葉のようであり、彼らの内で永遠の命に湧き上がる水の井戸となるであろうに。恵みの回復させる雨は彼らにすべての労苦や疲れを忘れさせながら、魂を新たに生き返らせる。彼らは靈感のみ言葉によって強められ励まされる。

牧師たちは神聖な信仰を吹き込まれ、彼らの祈りは真理の神々しい保証に満たされた熱心さによって特徴づけられる。疲れは天の陽光の中で忘れられる。真理は彼らの生活の中に織り込まれ、その天来の原則は、清水の流れる小川のように、絶えず魂を満足させるものとなる。

主の哲学はクリスチャン生涯の規則である。全存在は天の命を与える原則を吹き込まれる。非常に多くの人の時間を消費してしまう多忙な雑用は、聖化させる健全な聖書の敬虔の前に彼らのしかるべき立場のうちに縮小される。

聖書、聖書だけがこのよい結果を生み出すことができる。それは神の知恵であり神の力であって、受容力のある心に全力で働く。ああ、もしわたしたちが自分の意志を神の意志に一致させるなら、わたしたちはどれほどの高さに到達できることであろうか。わたしたちがどこにいても必要としているのは神の力である。(教会への証 8 巻 193,194)

光のうちに歩むとは愛すること

『光の中にいる』と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中にいるのである。兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまりくことはない。』（ヨハネ第一 2:9,10）

わたしたちはすべての利己心を捨て去り、愛と一致のうちに共に働かなければならない。わたしたちは自分を愛し、甘やかし、強情であることを弁解してきた。しかし、自分ほどには落ち度のない兄弟たちに対しては憐れみがなかった。主は、わたしたちが主に感謝せず、主の憐れみを忘れて、悪い心を起こして信じていないときでさえ、わたしたちを愛し、わたしたちを忍んで下さる。しかし、兄弟がた、考えてみなさい。わたしたちは互いにどれほど容赦なく、憐れみのない者であろうか。キリストがわたしたちを愛して下さったようにわたしたちが互いに愛すべき時に、どれほど互いに傷つけ、痛みを与えていることであろうか。完全な変化をもたらそうではないか。愛という尊い植物を培い、互いに助け合うことを喜ぶのではないか。わたしたちはお互いの過ちに寛大で自制心があり忍耐強くなければならない。自分自身に対しては鋭い批判をし続けなければならないが、兄弟たちにはすべてを望み、すべてを信じなければならない。

あなたがたのある者は罪の許しを、すなわち神にある自由を熱心に求めているように見える。あなたは自分が求めている許しを受ける価値があるのだろうか。否、あなたにはない。それにもかかわらず、神はそれを無償で与えたいと望んでおられる。それでいながら、あなたは許しと愛情を受ける価値がないと思う兄弟にそれらを与えずにおくのであろうか。あなたは神にあなたをこのように扱ってほしいのか。神に自分を扱ってほしいように、あなたの兄弟を扱いなさい。もしわたしたちが許しを求める自分の祈りが聞かれるのを期待するのであれば、わたしたちは許しの精神でそれらを提供しなければならない。わたしたちは同じ態度で、同じ程度に他の人々を許さなければならないが、それはわたしたち自身が許されることを希望するからである。自称クリスチャンが互いに表す非情はキリストに似ておらず、サタンのおいがする。わたしたちは一人びとりイエスの愛に心を大きく開いて、兄弟へのあわれみと愛情を強めなければならない。

「キリストがわたしたちのために死なれた」のは「わたしたちがまだ罪人であったとき」であった（ローマ 5:8）。わたしたちに対する受ける価値のない者へのお方の愛とあわれみを考えるとき、わたしたちはどうして敵意、もしくは不親切な気持ち一つでさえ、このお方の血で買い取られた兄弟に対して心に抱えていることができるであろうか。（福音宣伝者 429,430・1892 年版）

10月6日

わたしは死から命へ移ってきたか

「わたしたちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。愛さない者は、死のうちにとどまっている。」(ヨハネ第一 3:14)

わたしたちの最悪の敵、わたしたちに害を加えようとする者に対してさえもすべての疑いと憎しみ、そして悪意のあるすべての感情を捨て去ろう。しかし兄弟たちよ、あなたがイエスのところに来る前に、心があなたの兄弟と調和するまで待つてはならない。なぜならあなたに勝利を与えるのは、あなたの内で働いているこのお方の御霊と力だからである。

多くの者がうぬぼれて満たされており、自分を兄弟より上であると考えている。そのような者は自己に死ななければならない。肉の思いを十字架につけよう。もしあなたが心に恨み、疑い、うらやみ、嫉妬心を持っているなら、あなたにはすべきことがある。あなたの罪を告白し、兄弟と和合しなさい。彼らのことを良く話しなさい。好意的でない暗示、他の人々の思いに不信感を起こさせるようなほめかきを捨て去りなさい。あなたが自分の評判を守りたいと思うのと同じ厳粛さで、彼らの評判を守りなさい。あなたがイエスに愛されたいと思うように彼らを愛しなさい。彼らの利益のために労しなさい、彼らの破滅の上に自己を築き上げようと、彼らの利益を台無しにしようとする代わりに。サタンは兄弟を告発する者であり、あなたに自分の手助けをさせることを好むが、彼を失望させなさい。あなたに対してサタンに勝利を許してはならない。

ある者は遠慮なく言い、ぶっきらぼうで粗野なことを自慢し、それを率直と呼ぶ。しかしこれは正しい呼び方ではない。それは最も手に負えない悪質の利己心である。このような人々に徳があるかもしれない。気前が良く、親切な一時の感情があるかもしれない。しかし、彼らの無作法な態度は、ほとんど彼らを耐えがたい者とする。彼らは批判し、傷つけ、不愉快なことを言う。彼らが培っている品性はイエスを表すであろうか。それは彼らを天の社会にふさわしくするであろうか。わたしたちは自分がどのような態度の精神を大事にしているのかを知るために、自分自身をよく吟味しよう。最もつらい状況にあっても優しく静かに語ることがを学ぼう。自分の言葉だけでなく、思いや想像も支配しよう。言葉においてもふるまいにおいても親切で礼儀正しくあろう。この配慮に大きな怠慢がある。わたしたちは自分たちがなり得る者にも、神がわたしたちにならせたいと思っておられる者にもなっていない。(福音宣伝者 430,431)

だれもそれをすべては知らない

「もし人が、自分は何か知っていると思うなら、その人は、知らなければならぬほどの事すら、まだ知らない。」(コリント第一 8:2)

もし聖書の中に理解するのが難しいものが何もなければ、そのページを探るのに、人は自尊心と自己称揚のうちに高ぶるようになるであろう。人にとって自分が真理のどの面も理解していると考えるのは決して最善ではない。なぜなら彼は理解していないからである。それならば、だれも自分が聖書のすべての部分を正しく理解しており、自分が理解しているのとまったく同じように、他の人にも理解させるのが自分の義務であると感じて、自分をおだてないようにしよう。知的自尊心は払いのけよう。霊的自尊心のどの類に対しても、わたしは警告の声を上げる。この自尊心は今日の教会の中にたくさんある。

わたしたちが今大切にしている真理が、初めて聖書の真理としてあらわれたとき、それはどれほど奇妙なものに見え、またわたしたちがそれを初めて人々に示したとき、どれほど強い反対に会わなければならなかったことか。しかし、従順で真理を愛する働き人たちは、どれほど熱心でまじめであったことか!わたしたちは本当に特殊な民であった。わたしたちは数が少なく、富がなく、世的な知恵も、世的な名誉もなかったが、それでもわたしたちは神を信じ、強く、成功し、悪を行う者には恐怖であった。互いへのわたしたちの愛は堅固であり、たやすくふるわれなかった。そのとき神の力がわたしたちの間にあらわされ、病人は癒され、そこにとても静かな気持ちのよい聖なる喜びがあった。しかし光が増し加わっていったが、教会は比例して前進していかなかった。純金は次第に光沢がなくなり、死んだような無気力と形式主義が入り込み、教会の精力を鈍らせた。彼らの豊かな特権と機会は神の民を純潔と聖潔へと前進、向上させなかった。神が彼らに委ねておられたタラントを忠実に活用するなら、それらのタラントを大いに増すのである。多く与えられたところには多く要求される。神がわたしたちに与えておられる光を忠実に受け入れ感謝する者だけが、克己と自己犠牲のうちに気高く高潔な立場をとる者だけが、世に対する光の通路となる。(教会への証 5 巻 533,534)

10月8日

神の譴責で方向を変える

「思慮のない者たちよ、あなたがたは、いつまで思慮のないことを好むのか。あざける者は、いつまで、あざけり楽しみ、愚かな者は、いつまで、知識を憎むのか。わたしの戒めに心をとめよ、見よ、わたしは自分の思いを、あなたがたに告げ、わたしの言葉を、あなたがたに知らせる。」(箴言 1:22,23)

前進しない者は、天のカナンの境界線上にいてさえ、後退する。わたしたちの信仰と働きが、委ねられた真理の光に少しも見合っていないことがわたしに示された。わたしたちは気乗りのしない信仰を持つのではなく、愛によって働き魂を清める完全な信仰を持たなければならない。(教会への証 5 巻 534)

わたしたちは神の御旨を行うことの中で持っている光すべてに従って生きることにより、聖書の真理を学ぶことができる。さもなければ他の多くの者がしているように、自分たちの確信をあいまいにし、ゆがめ、不従順によって自分たちの信仰を墮落させる。人々は神の偉大な道德の義の基準からそれ、それが「聖であり、正しく、善なる」ものであることを疑おうとする。彼らは罪を犯す自由を望み、ついには律法の要求に拘束力があることを疑うところまでくる。なぜなら彼らの肉の心はその教訓に違反することを望み、神の律法は彼らにとって奴隷のくびきとなっているからである。

そのような者はその後何かに失望し、真理に帰ってくるかもしれないが、再びそれから離れる。なぜなら彼らの心は完全に変えられていないからである。世界で最も有益な人々は、社会でもてはやされ甘やかされて、高ぶったうぬぼれの強い人々ではなく、へりくだって神と共に歩む人々、その態度がでしゃばりでなく会話が誠実な人、すべての栄光を神に帰し、少しも自分のものにしない人々は、最も明確かつ健全な感化力を教会に及ぼしている人々である。彼らが神の代弁者として人々の前に立つとき、彼らのまわりにあるものは一切忘れられる。彼らの言葉は、御霊の表れのうちに力を伴って出てくる。彼らは、それが彼らを友とするか敵とするかはともかく、教会に物事を整然と定めるために神がお与えになった能力を表す。罪と悪を譴責する際に、率直で厳粛な証が必要なとき、たとえ地位の高い人々であっても、彼らはだまっていることなく、真理の神の指示に注意を払うのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1888 年 9 月 4 日)

どのように聞き従うか

「思慮のない者の不従順はおのれを殺し、愚かな者の安樂はおのれを滅ぼす。しかし、わたしに聞き従う者は安らかに住まい、災に会う恐れもなく、安全である」。
(箴言 1:32,33)

神のみ言葉の真理は重い耳に、頑固で感受性の鈍い心に語られる。これらの自称クリスチャンによって未信者に与えられた印象は、キリストの宗教は少しも好ましいものではない。これらの鈍く不注意な者は、世の事業に携わる時には、野心と熱心さを表すが、永遠の重要さに関わることには、世的な事柄に示すほど没頭せず、関心を示さない。神の使者を通して聞くこのお方のみ声は快い歌であるが、その聖なる警告、譴責、励ましには注意が払われない。永遠で聖なる事柄は普通の事柄の水準に置かれている。聖霊は悲しんでおられる。キリストは「どう聞かかに注意するがよい」と言われた(ルカ 8:18)。彼らは働きに心あらずの状態で神を礼拝すると公言する、靈的に死んだ者である。イエス・キリストの牧師を励まし、その手を支えるために、心の温かいはつきり目覚めた教会がなければならぬ。

真理を信じると公言する民は、わたしたちの信仰の証拠に精通しているかもしれないが、世の面前でその葉を見せびらかす、うぬぼれたいちじくの木のようなものである。しかし主人であるお方によって調べられるとき、実のないことが分かる。実を結ぶクリスチャンは神とつながっており、神の事柄において知的である。真理と神の愛を、瞑想する。彼らは命のみ言葉を大いに楽しんでおり、講壇から語られるみ言葉を聞くとき、エマオへの途上でキリストがご自身に関して彼らに預言を説明されたとき、二人の弟子がそうであったように「道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互いの心が内に燃えたではないか」と言うことができる(ルカ 24:32)。

光とつながっている者は皆、世に彼らの光を輝かせ、心から神に向かって感謝の気持ちがあふれ出て、自分たちの証の中で、神をたたえる。キリストと生きたつながりのある者は、このお方の愛の確証のうちに喜ぶ。(ビュ・アッド・ハラルド
1880年1月1日)

10月10日

そむくことの危険

「しかし、もしあなたが心をそむけて聞き従わず、誘われて他の神々を拝み、それに仕えるならば、わたしは、きょう、あなたがたに告げる。あなたがたは必ず滅びるであろう。あなたがたはヨルダンを渡り、はいって行って取る地でながく命を保つことができないであろう。」(申命記 30:17,18)

落ちつきのない、押し寄せるような人類の大多数は、自分たちの創造主を忘れてしまった。神の律法の違反は、わたしたちの世界に不一致、不幸、荒廃をもたらした。そしてまだ彼らはその盲目と狂乱状態の中で違反を続けている。彼らは、神にある平安を見出すようにと招いてくださるこのお方のみ声に聞き従うのを拒む。諸王、政治家、地上の有力者は魂に平安と休息を与えるには無力である。真の幸福を見出すことができるのは、ただ神の律法への従順においてのみである。もしわたしたちが自分の魂に神の神聖な永遠の一致を持ちたいのなら、わたしたちの意志をこのお方に明け渡さなければならない。(ヒストリカル・スケッチ 187)

今日〔神は〕ご自分の民の純潔を保つために新しい計画を設けてはおられない。このお方は、古代のように、その御名を公言する罪を犯した者に、彼らの悪の道から離れ、悔い改めるようにと嘆願しておられる。そのときと同じように今もこのお方はご自分が選ばれた僕の口を通して彼らの前にその危険を預言しておられる。このお方は警告を発し、罪を戒められる。……しかし現代のイスラエルには古代イスラエルのように、譴責をあざけり勧告を憎む同じ誘惑がある。彼らは、神が真理を公言する人々の益のためにご自分の僕に与えておられるみ言葉に対して、あまりにもしばしば聞く耳をもたない。(教会への証 4 卷 165)

自分たちのテストと試練のときに聞くのを拒む者は、彼ら自身の邪道の結果に直面する。彼らは地の宝をひたむきにつかみ、その栄誉と快楽を求めることはできるが、書き物が開かれ、一人びとりがなした自分の働きによって報いを受けるときに、その判決はどのような光景であろうか。

魂の価値はカルバリーの十字架によって評価される。主はそのためにご自分が死なれた魂の価値をお認めになり、彼らのご自分の王国の臣民になることを望まれる。しかしこの世の神は、人々が自分の危険を見ないようにと彼らの知覚力を失わせる。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1895 年 11 月 21 日)

神のみ言葉に恐れおののく

主はこう言われる、「天はわが位、地はわが足台である。あなたがたはわたしのためにどんな家を建てようとするのか。またどんな所がわが休み所となるのか」。主は言われる、「わが手はすべてこれらの物を造った。これらの物はことごとくわたしのものである。しかし、わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である。」(イザヤ 66:1,2)

聖書を自分に語っておられる神のみ声として読む者だけが真に学ぶ者である。彼らは神のみ声に震えおののく、なぜならそれは生きた現実だからである。彼らは奉仕の準備ができるために、自分たちの理解力を神聖な教えに開き、恵みを求めて祈る。天来のたいまつが自分の手に置かれるとき、真理を求める者は、自分自身の弱さ、無気力、また義を求めて自分を見ることに希望がないことを悟る。彼は自分の中に、神に自分を推奨できるものが何もないことを知る。彼はキリストの代表者である聖霊に、自分の絶え間ない導き手であるように、自分をすべての真理に導いてくださるようにと祈る。(両親、教師、生徒への勧告 450)

サタンがいろいろの方法で、神の律法の要求に対して、人々の目をくらませているこの時代において、「われわれの神の命令に」、多くの人々をふるえおののかすことのできる人々が必要である(エズラ 10:3)。大いなる律法の与え主を罪人に指し示し、彼らに「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ」ることを教える、真の改革者が必要である(詩篇 19:7)。聖書にくだしい人々、すべての言行において主の戒めを高める人々、信仰を強めようと努力する人々が必要である。人々の心に、聖書に対する崇敬の念と愛を起こさせる教師が、なんと多く必要なことであろう。(国と指導者下巻 224,225)

すべての者が「わたしは救われるために何をしなければならないでしょうか」と問う必要がある。神はご自分のみ言葉に恐れおののく、へりくだって悔い改めた心を要求なさる。わたしたちの無能力をはっきりと分からせ、キリストの威厳と栄光をわたしたちに示す天のたいまつを、わたしたちが受けることができるのは、天の祭壇からだけである。これが見られるとき、神はわたしたちを聖霊の導きのもとに置き、このお方はわたしたちをすべての真理に導かれる。(バイブル・エコー 1896年7月20日)

10月12日

譴責の祝福

「戒めはともしびである、教は光である、教訓の懲らしめは命の道である。」(箴言 6:23)

われわれは、不正な行いをする者に過度に厳しくならぬよう注意しなければならないが、しかしまた、罪のはなはだしい罪深さというものを見落とすことのないよう、気をつけなければならない。過ちを犯している者に、キリストのような忍耐と愛を示すことは必要であるが、過ちに寛大すぎると、譴責を受けるほどでもないと彼に思い込ませてしまい、その譴責を不必要なもの、不当なものとして拒むようにさせてしまう危険がある。

福音を伝える牧師たちは時々、誤りに陥った者たちに対して寛容なあまり、罪を黙認し、みずから罪に関係することさえして、大きな害を及ぼすことがある。こうして彼らは、神がとがめておられることをゆるしたり、弁解したりするようになり、しばらくすると、神が譴責するようにと命じておられるその人々をほめるまでに盲目となってしまう。神がとがめておられる人々に、罪深い寛大さを示すことによって、自分の霊的な知覚力を鈍らせている者は、やがて、神が是認される人々に対して厳しい、苛酷な態度をとることによって、さらに大きな罪を犯してしまうであろう。(患難から栄光へ下巻 200)

聖霊の感動は、きょう無視されると、明日はきょうほど強くなる。心はだんだん感じなくなり、人生の短かさについて、また未来の大いなる永遠について、危険な無感覚状態に陥る。さばきの時にわれわれが罪に定められるとすれば、それは、われわれが誤謬の中にいた結果ではなくて、何が真理であるかを学ぶ機会を天から与えられていたにもかかわらず、これを無視した結果である。(各時代の希望中巻 291)

神への悔い改めとわたしたちの主イエス・キリストへの信仰の必要を悟る者は、魂の悔悟を持ち、主の御霊への自分の抵抗を悔い改める。彼らは天が恵み深くも自分たちに送ってくださった光を拒んだ罪を告白し、主の御霊を深く悲しませ辱めた罪を捨てる。自己をへりくだらせ、警告、譴責、励ましのメッセージを認めつつ、キリストの力と恵みを受け入れる。そのとき彼らの働きにおける信仰は明らかになり、彼らは贖いの犠牲に頼る。(ビュー・アソド・ヘラルド 1890年8月26日)

今こそ、その時である

「わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。神はこう言われる、『わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、救の日にあなただけを助けた』。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。」(コリント第二 6:1, 2)

わたしは過ちを正すのに遅すぎないことを感謝する。わたしたち自身の心を吟味し、はたして自分が信仰のうちにいるかどうか、自らを試すのに遅すぎることはない。キリストが信仰によってわたしたちの心のうちに宿ってくださっていることを自ら確認するのに遅すぎることはない。もしわたしたちが偉大な道徳的標準と自らを比較するならば、自分の品性の欠点は何であるかを理解する。しかし、わたしたちの欠点や短所が何であろうと、失望すべきではない。わたしたちは自分自身の罪を認めて、それを捨て去らなければならない。なぜなら、キリストは二心に宿ることはおできにならないからである。

わたしたちの魂を神から引き離す最も大きな罪は、不信と心の頑なさである。なぜわたしたちはこれほど信じず、これほど感受性がないのであろうか。その理由は、わたしたちが自信に満ちているからである。わたしたちは自己満足を感じている。もしわたしたちが神の祝福の印を何か受けると、それをわたしたちが正しいことの保証として受け取る。そして譴責が与えられると、「わたしは神がわたしを受け入れてくださったことを知っています。なぜなら、このお方がわたしを祝福してくださったのですから。それゆえ、この譴責は受け入れません」と言うのである。もし主が祝福してくださらなかったなら、わたしたちはどんなに恐ろしい状態にいたことであろう！わたしたちは神がわたしたちに賜った品性の型、すなわちキリストを研究しなければならない。もし裁断すべき衣服があれば、型を研究する。そしてクリスチャン生涯において、わたしたちは自分自身の考えや計画を放棄し、大いなる型どおりに進まなければならない。しかし、このようにする代わりに、わたしたちは大いなる型から離れて働く。わたしたちは、うぬぼれに満ちているべきではない。わたしたちはヨハネが言ったように、「彼は必ず栄え、わたしは衰える」と言わなければならない(ヨハネ 3:30)。

あなたが型を研究し、模倣すればするほど、自己に信頼することはますます少なくなる。……あなたが自分の事例を神のみ前にあるがままに見るとき、自分自身の品性の欠点に関して、今あなたがもっているのとは違った考えを持つようになる。自分自身の見解と調和しないものが提示されるとき、そのことが自分の聖書を研究する機動力となるべきである。(ビュ・アッド・ハルト 1889年8月27日)

神が道を示された

「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。」(ミカ 6:8)

魂に記され、献身した聖なる生活のうちに表された神のみ言葉と律法には、世界を確信させる力強い感化力がある。偶像礼拝である貪欲、ねたみ、世への愛着は、キリストに従順である人々の心の中から抜き去られる。そして、正義を行い、憐れみを愛し、神のみ前にへりくだって歩むことが彼らの喜びとなる。ああ、このこと、すなわち神のみ前にへりくだって歩むことに、どれほど多くのことが含まれていることか！神の律法が、もし心に記されるならば、思いと意志をキリストの従順の支配の下へ連れて行く。

わたしたちの信仰は特別である。憐れみの最後のメッセージの響きの下で生きていると公言する多くの人々は、自分たちの愛情において世から分離していない。彼らは世の友情の前にひざまずき、世の恩寵を得るために光と原則を犠牲にする。使徒は次の言葉の中に恩寵を受けている神の民を描写している「しかしあなたがたは選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗闇から驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである」(ペテロ第一 2:9)。(教会への証 3 巻 201)

わたしたちは、なすべきほどに聖書感謝していない。その貯蔵された富を正しく評価してもいなければ、自分で聖書を探る大きな必要性も悟っていない。人々は何か世俗的な利益を追求したり、当世の娯楽に興じたりするために、神のみ言葉を研究することを怠っている。何か些細なことが神の靈感によって与えられた聖書に対する無知の言い訳にされている。しかし、地上の性質を有するものは何であっても、わたしたちに永遠の命へ至らせる知恵を与えるこの非常に重要な研究よりは、それを切り捨てる方が良い。(クリスチャン教育の基礎 123)

神の子一人びとりにとって、心のうちに神聖な真理を蓄えることは特権である。そして彼がそのようにすればするほど、ますます思いは神の深い事柄を探る活力と明晰さを持つようになる。彼は日常生活に真理の原則を実行するにつれ、ますます熱心に、活力にあふれた者になる。(レヴィ・アゾ・ハルム 1880 年 1 月 1 日)

神のご要求における豊かさ

「イスラエルよ、今、あなたの神、主があなたに求められる事はなんであるか。ただこれだけである。すなわちあなたの神、主を恐れ、そのすべての道に歩いて、彼を愛し、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に仕え、また、わたしがきようあなたに命じる主の命令と定めとを守って、さいわいを得ることである。」(申命記 10:12, 13)

主の規定された定めへの従順は、最も豊かな祝福をもたらす。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 2 月 21 日)

あなたはまだあなたが持っていない、また思い及びもしないほどはるかに深い経験を持たなければならない。すでに神の大いなる家族の一員となっている多くの人々が、神の栄光を眺めて、栄光から栄光へと変えられていくという意味が何であるかほとんど知らない。あなたがたのうち多くの人々は、キリストの卓越さの薄明かりをとらえて、魂が喜びに踊っている。あなたがたはもっと完全で、もっと深い救い主の愛の知覚を切望している。あなたは満足していない。しかし、絶望してはならない。イエスに心の最もすぐれた最もきよい愛情をささげなさい。光線の一つ一つを蓄えなさい。神を慕う魂の願い一つ一つを大事にしなさい。霊的な思想と聖なる交わりの素養を得なさい。あなたはここのお方の栄光のごくはじめの夜明けの光しか見ていない。あなたが主を知ろうと切に求めるにつれて、このお方が暁のように必ず現れ出ることを知るようになる。「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」(箴言 4:18)。わたしたちの罪を悔い改め、それらを告白し、許しを見出した後に、わたしたちは完全な福音信仰の真昼へ至るまでキリストを学び続けなければならない。(教会への証 8 巻 317,318)

静かな祈りと瞑想の生活が、イエスがわたしたちに期待しておられるすべてではない。このお方は実(み)を、すなわちわたしたちの生活に真の信心の徳が具体化されること、つまり良い者であるばかりでなく、良いことをするように期待しておられる。魂はこのお方の戒めのすべてを守り、このお方へのご要求への完全な従順のうちに神にまったく明け渡すことによって、献身しなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1878 年 2 月 21 日)

神はわたしたちがご自分の力のうちに果たすことのできないことは何も要求しておられない。何一つわたしたち自身とその子供たちのために益とならないものは要求なさらない。(同上 1882 年 2 月 9 日)

良い物を拒まれることはない

「主なる神は日です、盾です。主は恵みと誉とを与え、直く歩む者に良い物を拒まれることはありません。」(詩篇 84:11)

わたしたちの信仰は、ただちに自分の祈りに答えが与えられることを認めたり感じたりしないからといって、神の約束を離してはならない。神に信頼することを恐れてはならない。このお方の確かな約束により頼みなさい。「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」(ヨハネ 16:24)。神は過ちを犯すにはあまりに賢明で、まっすぐに歩むご自分の聖徒から良いものを一つでも差し控えるにはあまりにも良いお方である。人は過ちを犯す。そして正直な心から自分の嘆願をささげたとしても、彼自身の益のために、あるいは神に栄光を帰すものを求めるとは限らない。その場合、わたしたちの賢明にして善なる御父はわたしたちの祈りを聞き、時にはすみやかに答えてくださる。しかし、このお方はわたしたちにとって最善、かつご自身の栄光になるものを与えてくださる。神はわたしたちに祝福を与えてくださる。もしわたしたちがこのお方のご計画を見ることができたら、このお方がわたしたちの最善をご存じであり、わたしたちの祈りに答えてくださることをはっきりと認めることであろう。害となるものは何一つ与えられない。そうではなく、わたしたちが求めた益となるどころか害になるものの代わりに、わたしたちが必要としている祝福が与えられるのである。……

もしわたしたちが自分の祈りに直ちに応えられるを感じなくても、信仰を固く持ち、不信が入り込むことを許してはならない。なぜなら、それはわたしたちを神から引き離すからである。もしわたしたちの信仰が揺らぐなら、このお方から何も得ることはない。わたしたちの神への信頼は強くあるべきである。そしてわたしたちが祝福を最も必要としているときに、それは雨のようにわたしたちに下るのである。

神の僕が神の御霊と祝福を祈り求めるとき、それはときにすみやかにもたらされる。しかしいつもそのように与えられるとは限らない。そのようなときに、弱り果ててはならない。あなたの信仰がしっかりと約束をつかむなら、それは果たされる。神を完全に信頼しなさい。そうすればしばしば祝福はあなたがそれを最も必要としていたときにもたらされ、あなたは真理を未信者に提示しているときに、思いがけず神から助けを受け、明晰で力のある言葉を語るができるようにしてくださる。……

まじめな心から信仰のうちにささげられる祈りの一つ一つは、神に聞かれ、答えられる。そして嘆願をささげた人は、それを最も必要としているときに、祝福を得るようになる。そしてしばしばそれは期待を超えるのである。(教会への証 1 巻 120,121)

神のみ顔の光のうちに

「祭の日の喜びの声を知る民はさいわいです。主よ、彼らはみ顔の光のなかを歩み」(詩篇 89:15)

神は、魂の健康と繁栄に注意を払うことを、第一の仕事とするように要求しておられる。わたしたちは神の恩寵を享受していること、神がわたしたちに微笑んでおられること、わたしたちが本当にこのお方の子であること、そして神がわたしたちと交わることができ、またわたしたちがこのお方と交わることのできる立場にいることを確認すべきである。わたしたちはこのお方が安全にわたしたちに祝福を与えることがおできになるへりくだりと柔和の立場に至るまで、またこのお方の光がわたしたちの上に輝き、その光をわたしたちがあたり一面に反射できるように神との聖なる近さにまで連れて行かれるまで安んじるべきではない。しかし、わたしたちがその光のうちに生きるために、自ら真剣に奮闘しないかぎり、このようにすることはできない。神はご自分に従うすべての人々にこれを要求しておられる。(ビュー・アソド・ヘラド 1870 年 3 月 29 日)

イエスの麗しさ、いつくしみ深さ、憐れみ、愛を思い続けることは、精神と道徳の力を強める。そして思いがキリストのわざをなすように、すなわち従順な子となるように訓練され続ける間に、あなたは習慣的に、これは主の道であろうか、と尋ねるようになる。イエスは、わたしがこれをなすことをお喜びになるであろうか。この道は私自身を喜ばせることであろうか、あるいはイエスをお喜ばせることであろうか。……

多くの人々は、イエスをお喜ばせしたければ、思想と行動の特質に決定的な変化を必要としている。わたしたちは自分の罪を、神がご覧になるような悲しむべき光のうちに见ることがほとんどできない。多くの人々は、罪の道を進むことに慣れており、彼らの心はサタンの力の影響の下で固くなっている。そして彼らの思想は彼の悪影響の虜にされている。しかし、神の力と恵みのうちに、彼らが自分の思いをサタンの誘惑に対抗する場所におくなら、彼らの思いは明晰になり、彼らの心と思いは神の御霊に感化されることによって敏感になり、そのとき、罪があのまま一はなはだしく罪深いもの一としてあらわれるのである。そのときこそ、秘かな罪が彼らの顔の光のうちにおかれる。彼らは自分たちの罪を神に告白し、それらを悔い改め、罪を恥じるようになるのである。……彼はそれらを神のみ顔の光からこのお方の背後へと投げ捨てる。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 3 卷 1150)

10月18日

地下室から出てきなさい！

「ヤコブの家よ、さあ、われわれは主の光に歩もう。」(イザヤ 2:5)

神はあなたが自分の闇を捨て去るように、そしてキリスト教には世にない力があることを示すようにと望んでおられる。このお方はあなたをご自分のうちにあつてすべて光にしたいと望んでおられる。またあなたの心を愛と平安と希望で満たしたいと望んでおられる。もし、それでも、あなたが自分の闇にしがみ続けるならば、あなたはこのお方を辱めるのである。なぜなら、あなたは罪をお許しになる救い主を世に正しく表していないからである。もしあなたが暗く、落胆し、希望がないなら、あなたはキリスト教の粗悪な代表者である。キリストはすべての人のために死なれた。犠牲は完全であった。あなたには完全な力強い救い主がおられることを世に示すのはあなたの特権であり、義務である。受け入れるすべての人のために、満ちみちた無償の救いを買取るために死なれたのは、無限の神の御子であられた。そうであれば、なぜこのお方をあなたの救い主として信じていないのか。このお方はあなたの不信仰を譴責なさる。このお方はあなたの信仰を尊ばれる。

地下室に行ってみなさい。そうすればあなたは闇についてよく話すことができるであろう。そして「見えない、見えない」と言うことであろう。しかし、二階の部屋にあがってきなさい。そこには光が輝いており、あなたは闇のうちにいる必要がない。キリストがおられるところへ来なさい。そうすればあなたは光をもつようになる。不信仰を語るなら、あなたは不信仰を得るであろう。しかし、信仰を語るなら、あなたは信仰を得るであろう。まいた種に従って収穫を得るのである。もしあなたが天と永遠の報いについて語るなら、あなたは主のうちにますます明るくなり、あなたの信仰は成長する。なぜなら、それを働かせるからである。親愛なる友人がたよ、あなたがたの目をしっかりとイエスに留めなさい。そうすれば、眺めることによって、あなたはこのお方のみかたちに同化していく。あなたの思想がいつも地上のことを考えることを許してはならない。かえってそれらを天来の事柄を思うようにしなさい。そうすれば、あなたはどこにしようと、世に対する光となる。

日ごとに信仰の生活を送りなさい。悩みの時について不安になったり心配したりして、前もって悩みの時を持つことがあつてはならない。つねに「わたしは大いなるテストの日に耐えられるか心配だ」と考え続けてはならない。あなたは現在、この一日だけを生きるべきである。明日はあなたのものではない。今日、あなたは自己に対する勝利を維持しなければならない。今日、あなたは祈りの生活を送らなければならない。今日、あなたは信仰の良き戦いを戦わなければならない。(ヒストリカ・スケッチ 142)

わたしの光はどこから来ているか？

「見よ、火を燃やし、たいまつをとす者よ、皆その火の炎の中を歩め、またその燃やした、たいまつの中を歩め。あなたがたは、これをわたしの手から受けて、苦しみのうちに伏し倒れる。」（イザヤ 50:11）

神の民は天の光のうちに歩むべきであって、自分自身のともした火花の光や、敵が彼らのためにともし火花の光のうちに歩むべきではない。敵は、もしわたしたちが導かれるならば迷わせるのに十分な火をおこす。わたしたちは自らを真理と義と公平と正義の最も高い標準に到達する立場に身をおかなければならない。（世界総会冊子 1901 年 4 月 10 日）

多くの人々は、自分の牧師たちが神からの光を自分たちにもたらしてくれることを期待し、自分自身でわざわざ神の許へ行くよりもそのほうが楽だと思っている。このような人は多くを失う。もし彼らが日々キリストに従い、このお方を自分の案内また相談相手とするならば、彼らはこのお方のみ旨についての明確な知識を持ち、こうして貴重な経験を得続けることができる。まさにこの経験が不足しているために、真理を公言する兄弟たちは他の人のともし火花のうちに歩む。彼らは神の御霊となじみがなく、神のみ旨についての知識がない。そのために簡単に自分の信仰から動いてしまう。彼らに安定がないのは、彼らが自分のための経験を得るのに他の人を当てにするからである。個々人が神聖なみ旨についての知識を得、またクリスチャン品性を完成し、真理を通して清められるために、一人ひとりのアダムの息子娘のために豊かな備えがなされてきた。（教会への証 2 巻 644）

大いなる光と祝福をもち、多くの機会と特権をもちながら、それらを救いに至るように用いないことは恐るべきことである。自分たちの機会を救いに至るように用いない人々は、神が自分たちに授けて下さった特権によって責められることになる。しかし、光のうちに歩む人々は、さらに多くの光を受けるようになる。真理の光をもっていないながら、その光のうちに歩んでこなかった人々は、コラジンとベツサイダが受けたのと同じ有罪宣告の下にいる。これらの警告に注意を払わないのであろうか。これらの訓告はわたしたちの上に重みを持たないのであろうか。近い将来、だれがへりくだって神と共に歩んできたか、まただれがこのお方のご命令に従ってきたかが、ありのままに見られるようになる。（クリスチャン教育 140,141）

10月20日

命の光

「イエスは、また人々に語ってこう言われた、『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう』」（ヨハネ 8:12）

神の民はあまりにも雲の下にとどまりすぎる。彼らが不信仰のうちに生きるのは、神のみ旨ではない。イエスは光であられる。そしてこのお方のうちには闇が少しもない。このお方の子らは、光の子らである。彼らはこのお方のみかたちに新たにされ、闇からこのお方の驚くべきみ光に導き入れられるのである。このお方は世の光であられる。そして、このお方に従う彼らも同様である。彼らは闇の中を歩まず、命の光を持つ。神の民がもっと厳密にキリストを模倣しようと奮闘すればするほど、ますます敵にしつこくつけねられることになる。しかし、彼らがキリストに近いことは、キリストから彼らを引き離そうとするわたしたちのずる賢い敵の努力に抵抗するために、彼らを強める。

わたしは、わたしたちがあまりにも自分たちの間で比較することが多く、確かな間違いのない模範があるときに、誤りの多い死すべき人間を模範とすることを示された。わたしたちは世によって、あるいは人の意見によって、あるいはわたしたちが真理を奉じるまえの自分たちの状態によって、自らを測るべきではない。そうではなく、世における今のわたしたちの信仰と立場は、もしわたしたちがキリストに従うと公言するようになってから、つねに前進、向上する道のりであったならばなっていたはずの状態と比較しなければならない。これだけがわたしたちのなすことのできる安全な比較である。その他は何でも、自己欺瞞がおこることになる。もし神の民の道徳的な品性と霊的な状態が自分たちに与えられてきた祝福と特権と光に見合わないならば、彼らは秤ではかられて、御使が「足りない」という報告をなすのである。

ある人々は、自分たちの真の状態の知識が、自分たちから隠されているようである。彼らは真理を見るが、その重要性和その要求を悟らない。彼らは真理を聞くが、それを十分に理解しない。なぜなら、自分たちの生活をそれに調和させないからである。したがって、それに従うことによって聖化されることがない。（教会への証 1 巻 405,406）

服従の道は安全の道である。「まっすぐに歩む者の歩みは安全である」（箴言 10:9）。（同上 3 巻 108）

主はご自分の民のために一つの安全な道を持っておられる。そしてそれは主の言葉への従順の道である。（パイプル・エコー 1895 年 4 月 19 日）

従順の道は、天へ導く唯一の道である。（レビュー・オブ・ワイルド 1875 年 3 月 18 日）

いにしえの道からつまずき離れる

「昼間あるけば、人はつまずくことはない。この世の光を見ているからである。しかし、夜あるけば、つまずく。その人のうちに、光がないからである。」(ヨハネ 11:9, 10)

なんと多くの人々が、頭でっかちな宗教経験を持っていることであろう。彼らはキリストから栄養を得ていない。彼らは世を愛し、世の愛するものを愛している。ときどき、彼らはキリストの愛によって感動するが、気をつけて見張り、祈ることをしない。彼らは自己否定と十字架を担う道を選ばず、イエスが地上で歩まれた道に従うことをしない。彼らは自己にふけり、自分たちの金銭を糧にもならぬもののために費やし、満たすことのないもののために労する。彼らは預言者が次のように言ったときのようにである。「しかし彼らは言う、『それはむだです。われわれは自分の図るところに従い、おのおのその悪い強情な心にしたがって行動します』と。それゆえ主はこう言われる、異邦の民のうちのある者に尋ねてみよ、このような事を聞いた者があろうか。おとめイスラエルは恐ろしい事をした。レバノンの雪が、どうしてシリオンの岩を離れようか。山の水、冷たい川の流れが、どうしてかわいてしまおうか。それなのにわが民はわたしを忘れて、偽りの神々に香をたいている。彼らはその道、古い道につまずき、また小道に入り、大路からはなれた」(エレミヤ 18:12-15)。この世のわずらいが良いことを締め出してしまうことを許す人々は、この世に飽きあきするようになる。彼らが神へ献身すべき時になると、彼らは自己満足のために献身する。主の働きが彼らの第一の懸念事項であるべきである。しかし、イエスとイエスがそのために死なれた魂は二の次の重要性を持つものとして扱われている。世を愛する彼らの愛情、富みを求める彼らの願い、世の標準に合わせて、世の流行に従い、すべての新しいことを試そうとする彼らの熱意は、世に詰まって、実を結ばないのである。(レ・ビュ・ア・ド・ハラルド 1892年6月21日)

義の太陽の明るい光線は、すべての暗い雲を追いつち散らす。……わたしたちは真夜中の闇の中でも道中つまずく必要がないと知るとは、なんという慰めであろう。光は正しい人のために現れ、喜びは心の正しい者のためにあらわれる。(原稿別ス7巻 391)

10月22日

光に従って生きる

「もしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい。」(ヨハネ 12:35, 36)

どの人も、どの教会も、娯楽を愛する階級と交わりながら、主がご自分のみ言葉を信じる単純な信仰を持っている人々のために送られた豊かな流れを感謝していることを表すことはできない。世はノアの時代における世界のように汚染されており、墮落している。唯一の治療法は真理を信じることであり、光を受け入れることである。(牧師への証 91)

神の残りの民は改心した民でなければならない。このメッセージの提示は、魂の改心と聖化という結果となる。わたしたちはこの運動において神の御霊の力を感じるべきである。これはすばらしいはっきりとしたメッセージである。それは受ける者にとってすべてを意味する。そして大いなる叫びをもって宣布されるべきである。わたしたちはこのメッセージが時の終わりまでますます重要性を増し加えながら伝えられるように、真実で不変の信仰を持たなければならない。

証のある部分は神のメッセージとして受け入れながら、自分たちのお気に入りへの放縱を責める部分は拒否する自称信徒たちがいる。このような人々は自分自身の幸福と教会の幸福に反して働いているのである。わたしたちは光のあるうちに光のうちに歩むことが重要不可欠である。健康改革を信じると主張しながら、日常生活の習慣の中でその原則に反して働く人々は、自分自身の魂を傷つけ、また信徒や不信者の心に悪い印象を残している。

真理を知っている人々に厳粛な責任が負わされている。それは彼らのすべての働きがその信仰に見合ったものとなること、また彼らの生活が精錬され聖化されること、またメッセージが閉じようとするこの時代に速やかになされなければならない働きのために彼らが準備することである。彼らには食欲の放縱に費やす時間も力もない。……わたしたちのうちに霊的に不足した者、全く改心しない限り、確実に失われることになる者がいる。あなたは危険を犯す余裕があるであろうか。(教会への証 9 巻 154,155)

主に喜ばれるものが なんであるかをわきまえ知る

「あなたがたは、以前はやみであつたが、今は主にあって光となっている。――光の子らしく歩きなさい。光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである――主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。」(エペソ 5:8-10)

神はわたしたちを正しく生きることと同様に、奉仕へと召しておられる。このお方は忠実さをもって今日の義務をなすように、すべての人に要求しておられる。しかし、これらの義務はクリスチャンだと公言する大多数によって大いに無視されている。彼らは身分が低く、つましい、貧しい人を避け、自己否定と自己犠牲のキリストのための働きを避ける。彼らの最高の利己心は、よりのやすく、より好みにあう働きを選ばせる。

天の全能者にあつてはそうではなかった。御使たちが礼拝するお方、誉れと栄光に富んだお方が地上に来られたとき、人と同じようになられた。このお方は他の恵まれない人々から隔たっていることも、義の教師としてご自分が入られたつらい自己犠牲の道から逃れようともなさらなかった。(ザン・ウォッチマン 1903 年 7 月 9 日)

自分が公言する真理の聖化する感化力について、体験的な知識をもっている人はごくまれである。彼らの服従と献身は、自分たちの光と特権に比例していない。闇の子としてではなく、光の子として歩むべき自分たちに課された義務を真に自覚していない。もし彼らに与えられてきた光がソドムとゴモラに与えられていたなら、彼らは荒布と灰のうちに悔い改め、めざましい神の怒りを逃れたことであろう。裁きの日には、明白な光の特権を受け、甚大な働きを得ながら、それによって益を受けなかった人々よりは、ソドムとゴモラの方が耐えやすいであろう。彼らは神が憐れみのうちに与えようと望んでおられた偉大な救いをなおざりにしたのである。(教会への証 2 巻 488,489)

世俗的な人は世俗の原則によって統治される。彼らはそれ以外を評価することができない。しかし、クリスチャンはこれらの原則によって統治されるべきではない。彼らは義務を遂行する際に、神のみ言葉のうちに見出されるとおりに、そして啓発された良心によって指示されるとおりに神のすべてのご要求に従うことを愛する、ということ以外のことを何か考えて、自らを力づけようとすべきではない。(同上 488)

10月24日

分離され、区別されている

「実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。」
(エペソ 5:11)

キリストに従う人々は世から出てきて、分離し、汚れたものに触れないことを要求されている。そのとき、彼らにはいと高き者の息子娘、王家の一員となる約束がある。しかし、もし彼らの側で条件に応じないならば、約束の成実は果たされない。キリスト教の公言は、神の御目に無に等しい。しかし、このお方のご要求への真実で謙遜な心からの従順は、このお方の養子による子供、このお方の恵みを受けた者、このお方の偉大な救いにあずかった者であることを示す。彼らの特別な聖なる品性が認識されるようになり、彼らを世から、その愛情と欲から、はっきり分離させるようになる。……

わたしたちのうちにこの描写に見合う人はほとんどいない。彼らの神への愛は、言葉においてであって、行いや真理においてではない。彼らの一連の行動やわざは、彼らが光の子ではなくて闇の子であることを証している。彼らの働きは、神のうちにではなく、かえって利己心と不義のうちになされている。彼らの心は神の新たにする恵みを経験していない。彼らは自分たちを導いてキリストが歩まれたように歩ませる変化の力を経験したことがない。天のぶどうの木の生きた枝は、ぶどうの木の樹液と養分にあずかるものとなる。彼らは枯れた実のない枝にはならず、かえって命と活力をあらわし、繁茂し、神の栄光へと実を結ぶのである。彼らは注意深くすべての悪から離れ、神の畏れのうちに聖潔を完成する。(教会への証 2 巻 441)

新たにされた心には、神のみ旨に従うという不変の原則がある。なぜなら、正しく善であって聖なるものを愛する愛情があるからである。そこには、ためらいも、嗜好に合わせることも、都合を考えることも、他の人がそうするからといってある道へ進んで行くこともない。すべての人が自分で生きるべきである。恵みによって新たにされるすべての人の思いは、開かれた媒介であり、上からたえず光、恵み、真理を受けては、同じものを他の人々に伝える。彼らの働きは実が多い。彼らはきよきに至る実を結び、その終極は永遠のいのちである。(同上 488)

光がさらして、新たにする

「光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。明らかにされたものは皆、光となるのである。」(エペソ 5:13,14)

明白な光が輝き出るようにしよう。注意深く祈りをもって研究する神のみ言葉が人を均整の取れたものに保つ。このみ言葉の中に、わたしたちははっきりと定義された神の方法を見いだす。み言葉をまじめに探る人は、だれも闇のうちを歩むことがない。しかし、わたしたちは神が送られた光をわきに捨てながら、同時にその光線の中を歩むことはできない。クリスチャンであるならば、わたしたちはこのお方の徳を表し、このお方のみわざをなして、万事におけるクリスチャンでなければならない。真理がわたしたちの保護手段である。聖霊によって心の中に植え付けられると、真理は何が正しいことで、何が間違っているか、わたしたちがはっきりと違いを認めることができるようにさせる。(上を仰いで 21)

わたしたちは光が自分たちの罪を示し、わたしたちを譴責するからといって光よりも闇を選ぶのであろうか。自分たちの行いが明るみに出るからといって、光の許へ来ることを拒むのであろうか。真理が生活を支配するとき、純潔と罪からの自由がある。福音の計画の栄光と、満ちみちた十分さと、完全さが、生活の中で成就する。真理の光が魂の宮から放射する。理解力がキリストをとらえる。光が譴責し、警告するからといって憎まれることはなく、かえって受け入れられ、光のうちに喜ぶのである。

キリストは「わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」と宣言された(ヨハネ 12:32)。もし人の意志が神の意志に屈服させられるなら、人は罪人であっても、キリストに引き寄せられる。彼は、命と不死を人の手の届くところへおくために、神がご自分のひとり子を与えカルバリーの十字架上で死にわたされたときに神が表された愛をながしか悟るようになる。救い主を受け入れることによって、完全な平安、完全な愛、完全な保証がもたらされる。キリストの生涯の麗しさと香りが、品性の中に表されるとき、神が真実、世にご自分の御子を遣わされたということを証する。他の力は何も、これほど顕著に、人の言葉と精神と行動に、変化をもたらすことはできない。

キリストがいなければ、人の心は冷たい。しかし、自分が義の太陽を必要としていると感じるとき、彼はイエスの許へ来て、主よ、わたしは罪深く、価値がなく、希望もない者です。わたしをお救い下さい、さもなければわたしは滅びます、と言うとき、彼は愛されたお方のうちに受け入れられ、彼の心は神聖な愛の光線によって暖められる。(ユース・インストラクター 1899 年 9 月 28 日)

10月26日

神は起きよとの召しを送っておられる

「眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう。そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにではなく、賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。」(エペソ 5:14-17)

わたしたちはたしかにこの地上歴史の終末時代に生きている。もしこの時代に欠くことのできない霊的な成長を経験したければ、わたしたちは自分たちの霊的な利益のために多くの時間を捧げる必要がある。わたしたちは決定的な改革をすべきである。み声は言っている、見張り人は目覚める必要がある。確かなラッパの音を出しなさい。朝が来る、また夜も来る。起きよ、わが見張り人よ。今真理を提示するのが聞かれるべき声は、沈黙している。(バシフィック・ユニオン・レコーダー 1,908 年 2 月 20 日)

わたしたちは目覚めて、イエスのうちにあるがままの真理を理解する必要がある。わたしたちは好みに合わない仕事を避けようとするのがないように、神のみ言葉に勧告を求める必要がある。わたしたちが神の共労者であることを自覚するとき、半分無関心な様子で約束を語ることはいない。かえって、わたしたちの心のうちに燃え、わたしたちの唇に火をともしるのである。わたしたちはそれらを熱心に神のみ座に提示する。すると、主はご自分の御霊を注ぎ出して下さる。(ビュー・アード・ヘラルド 1896 年 1 月 21 日)

キリストの初臨の時に、御使たちは讃美の歓呼をもって夜の静けさを破り、「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」と叫んだ。このお方はまもなく、再び力と大いなる栄光をもって来られる。世と結合していない人々は、この時代が、弱々しくぼんやりした淡々とした説教以上の何かを要求していることを悟る。彼らはみ言葉に伴う熱心さと力がなければならぬことを認める。それが警告に反対するために黄泉の力を目覚めさせることになる。神は民が自分たちの肉の安全から呼び覚まされるようにと意図しておられる。こうして彼らがわたしたちの間近に迫っている大事件に備えることができるためである。……神はこの時代に眠たげで無気力なメッセージを受け入れることはおできにならない。昔、「人々が聖霊に感じ、神によって語った」(ペテロ第二 1:21)。そして、わたしたちの時代にも、そのような教えを期待できる。……だれも神が信じる人々の間でご自分の力を表されたいと思うことがないようにしよう。なぜなら、このお方は働かれるし、だれもこのお方を妨げることはできないからである。(エレン・G・ホワイト 1888 年原稿 1254,1255)

「神のものであって、 わたしたちから出たものでない」

『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。」(コリント第二 4:6, 7)

多くの人々は、聖書の中に含まれている教訓について、かつて見られたよりも、もっと十分な理解を得つつある。そして、彼らは敬神のより高い標準を見分けている。彼らは、世界のためになされるべき、キリストのための真剣な熱意、精力、自己否定、そして自己犠牲を要求する働きがあることを悟る。長年見てきたよりももっと高く、もったきよい種類のキリスト教が表されるようになる。わたしたちは非常に神聖な一触を必要としている。それはこれ以上、わたしたちの安逸で無関心な低い標準に合わせて働くことがないためである。しかし、教会が適切に教育されるとき、そしてその教会員が賢明に訓練されるとき、老いも若きも働こうという思いをもつようになる。(Eli・G・初作 1888 年原稿 1253,1254)

パウロは牧師や民の思いに、なぜ福音が弱く間違いを犯す人間に託されてきたのかその理由を印象づけようとした—それは人間が神だけに帰する誉れを受けることがなく、神がすべての栄光を受けるためである。大使は、あたかも自分自身の宝で働きを成し遂げたかのように得意がったり、成功の栄誉を自分のものにしたたり、あるいは神と誉れを分けあったりさえしない。苦心した理論づけや教理の議論的な説明は、聞き手に自分の必要や危険を印象づけることはめったにない。キリストの愛によってやさしく同情的にされた心からの、単純で簡潔な言葉が、からし種の一粒のようになるのである。……

わたしの兄弟たちは、人間には何の栄光も与えられていないということを心に留めるであろうか。彼らはキリストが人の心に働かれるのであって彼ら自身ではないということを認めるであろうか。(牧師への証 154)

キリスト教の初期のころ、滅びゆく世に救いのよきおとずれを携えていった献身的な使命者たちは、自己称揚の思いから、キリストとその十字架を示す働きを台なしにするようなことはなかった。彼らは権威も、自己の卓越をも望まなかった。(患難から栄光へ上巻 225)

10月28日

墮落した地において天を見出す

「しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし——あなたがたの救われたのは、恵みによるのである——キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。」(エペソ 2:4-6)

もし主が、昔ご自分の民が困難の時にご自分に勧告を求めることをなおざりにしたために譴責されたとしたら、今日ご自分の民が自分たちの道を照らすために義の太陽の明るい光線に頼る代わりに、自分たちのテストや試練の時にご自分に背を向けて、自分たちと同様に間違いを犯しやすく無関心な人間の助けを求めるとしたら、快く思われないのではないだろうか。わたしたちの力はどこにあるのであろうか。自分たちと同じように無力で依存し、わたしたちが必要としているように神からの導きを必要としている人間のうちにあるのであろうか。(牧師への証 380,381)

最大の必要の時に、すなわち失望が魂を圧倒しているとき、その時こそ、見守っておられるイエスの目はわたしたちがご自分の助けを必要としていることをご覧になる。人の必要の時は、神の好機の時である。すべての人間の支援が役に立たないとき、そのとき、イエスはわたしたちを助けるために来られ、このお方のご臨在が闇を散らして、陰鬱の雲を晴らして下さるのである。(教会への証 4巻 530)

もしあなたがキリストと共に天国に座したならば、神を讃美せずにはいられない。あなたの舌がこのお方を讃美し始めるように教育し、あなたの心が神に旋律を奏できるように訓練しなさい。そしてもし悪い者があなたの周りに彼の暗がりをつたえ始めたら、神への讃美を歌いなさい。物事があなたの家路に交差するならば、神のみ子の比類のない魅力について、讃美を歌い始めなさい。そうすれば、たしかにあなたに言うが、この曲を奏するとき、サタンはあなたを離れる。あなたは敵をその暗がりと共に追い出すことができる。彼の暗い影は、神を讃美することによって、あなたの道から一掃される。そしてあなたは、ああ、もっと非常にはっきりと、あなたの天父の愛と同情を認めることができる。義の太陽の光を覆い隠して、あなたがそれを見ることができないようにすることが、彼の研究している努力である。あなたの思いは神へと引き上げられるべきである。あなたは自分の家族の中で、また教会の中で、讃美集会を持つべきである。いかなる時にも、いかなる場所でも、陰鬱な物語をしてはならない。全世界があなたがたを見て、「この人たちは神を愛する民である。なぜなら、わたしたちは彼らのうちに神のみかたが反映しているのを見ることができるからである」と言うようにしなさい。(ビュー・アット・ヘラルド 1890年8月5日)

愛のうちを歩む

「また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって」(エペソ 5:2)

イエスの近くに生活している者は、敬虔の奥義について多くのことをさとる。譴責が与えられ、品性が試みられ、心の意図が明るみに出されるのは、あわれみによるものであることを彼はみとめる。(各時代の希望中巻 146)

苦しみや困窮を取り除いたら、わたしたちは神の憐れみと愛を理解する手段がなくなってしまうことであろう。思いやりのある同情深い天父を知る道がなくなってしまう。福音が最も困窮し、極貧の地域に伝えられるときほど、大きな美しい局面を帯びることは、他にない。そのとき、最もはっきりとした輝きと偉大な力をもって、福音の光が輝き出る。神のみ言葉からの真理が、田舎人のあばら家に入り、義の太陽からの光線が貧困者の粗雑な小屋を照らして、病人や苦しむ人に喜びをもたらす。神の御使たちがそこにいて、表された単純な信仰が、固いパンと水のコップをごちそうにする。罪を許す救い主は貧しい者や無知なものを歓迎し、彼らに天から下るパンを食べるようにお与えになる。彼らは命の水を飲む。忌み嫌われ、見捨てられてきた人々は、信仰と許しを通して、神の息子娘の気高さにまで上げられる。世を超越して引き上げられ、彼らは天国でキリストのうちに座する。彼らには地上の宝はないが、高価な真珠を見出したのである。(教会への証 7 巻 226)

キリストがわたしたちのために明らかに示してこられた愛は、比類がない。……ああ、わたしたちの救い主によって表された愛と関心に比較するとき、わたしたちの愛はなんと冷たく、わたしたちの関心はなんと弱々しいことであろう！イエスはわたしたち人類を贖うためにご自身を賜った。それでいながら、わたしたちはなんとたやすくイエスのために自分の持っているすべてのものを与えることを免れようとするのであろう。わたしたちの救い主は、疲れる骨折り、屈辱、苦しみを甘んじて受けられた。このお方は、なすために地上に來られた偉大な働きに携わっておられる間、嫌悪され、あざけられ、嘲笑された。

わが兄弟姉妹がたよ、あなたは「わたしたちはどの模範を模倣しようか」と尋ねるであろうか。わたしはあなたがたに偉大にして善なる人ではなく、世の贖い主を指し示す。もしわたしたちが本当の伝道精神を持ちたければ、キリストの愛が吹きこまなければならない。わたしたちは自分たちの信仰の創始者であり完成者であられるお方を見て、このお方のご品性を研究し、このお方の柔和とへりくだりの精神を培い、そしてこのお方のみ足の跡を歩まなければならない。(同上 5 巻 385)

10月30日

これが愛である

「戒めどおりに歩くことが、すなわち、愛であり」(ヨハネ第二6)

すべての罪深い放縱、あらゆる形態の悪徳、すべての利己的な野心は、道徳律によって有罪を宣告されている。安っぽく、いい加減で、不注意な種類の思いと品性がこの時代に非常に広く行きわたっているが、これは神の律法によっては認められていない。この律法は、魂がわなにかけられ、苦い経験によって罪への放縱の結果がいかに憎むべきものであるかを悟るまでは、美しい装いのうちに自らを覆う好色的な悪徳を責めている。神の律法は、神の思いからの放射物であり、戒めは人間の道徳的な義務を網羅している。

短い人生の恩恵期間の間に、わたしたちは将来の不死の命のために教育され、訓練されるべきである。そして人生の規則は、神の戒めであるべきである。「せよ」また「してはならない」は、嘆かわしい命令ではない。神の律法は奴隷のくびきではない。なぜなら律法を行う人は従順のうちに命と力を見出すからである。イエス・キリストから彼らに与えられた恵みを通して、彼らは真に神の聖なる命の規則に従順な者となれる。神の戒めを守るとは、魂を神の愛のうちに保ち、悪から命を守り、品性を愛の天国のために訓練することを意味する。

神の律法の拘束力のある要求は廃されたと教える人々は、自分たちが神の律法についてすべて知っていると考える。しかし、彼らは自分たちの不従順の道によって、彼らが律法の最初と最後の原則について無知であること、また彼らが律法の中に描写された神のご品性について何も知らないことを表している。……不従順のうちに生きながら、自分たちが神の律法を理解していると考える人々は、自分たちの無知を生活と模範によって明らかにし、自分たちが律法の規則の深さや意味について理解を持っていない事実を表している。

律法は、わたしたちに何が品性の正確と完全であるかについて教える教師であって、それはキリストの義を通して、わたしたちが神と生きたつながりをもつことができるためである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1894年10月22日)

義の太陽からの光線

「しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。」(マラキ 4:2)

光は祝福である。それは、恩を知らず、神聖を汚す、腐敗した世界に、おしみなく宝を注ぎ出す普遍的祝福である。義の太陽の光もこれと同じである。全地は、罪と悲しみと痛みという暗黒に包まれているから、神の愛の知識によって照らされなければならない。天のみ座から輝く光は、宗派、階級、地位のいかに問わず、どの人からも除外されてはならない。

希望とあわれみの使命は、地の果てまでのべ伝えるべきものである。望む者はだれでも、手を伸ばして神の力を自分のものとし、神と和らぎ、平和を得ることができる。異教徒も暗黒に閉ざされている必要はない。輝かしい義の太陽の光の前では、やみは消え去らねばならない。よみの力は、打ち破られたのである。(キリストの実物教訓 394)

主は、地に雲や雨ばかりでなく、まいた種が芽を出し、青い葉やつばみや花が表れるように、美しいほほ笑みの日光をも下さる。親愛なる両親がた、あなたの家庭と主のぶどう畑の中でのあなたの働きもそれとちょうど同じであるべきである。あなたは制限や譴責や矯正ばかりでなく、励ましや親切的な言葉という心地よい日光―快活で、喜ばしく、嬉しい言葉―をあなたの家庭や教会の中で与える必要がある。……

わたしたちはもつと日光のような両親、日光のようなクリスチャンを必要としている。ああ、さばき主が席につき、書物が開かれる大いなる清算の日には、どのようなことが表されることであろう！わたしたちはあまりにも自分たちで閉じこもっている。親切的な励ましの言葉が差し控えられている。わたしたちに何の費用もかからない笑顔が、子供たちや、困窮者、抑圧され、勇気を失っている人に与えられていない。(原稿ワス 4 卷 208,209)

世の悲しみの泣き叫びがわたしたちの周囲の至るところにある。その影がわたしたちに押し迫っている。そしてわたしたちはイエスのご臨在をいただいているのであるから、思いはすべての良い言葉とわざの用意ができていなければならない。このお方の聖霊の芳しい感化力は、活気づけ、励まし、他の人々の道を明るくするような言葉を語るために、わたしたちの思想を教え、導いている。(レビュー・アソッド・ヘラルド 1899 年 5 月 9 日)

いる」。

状況は、神さまがそう仰せになるほど、非常に恐ろしいことになっていたのです。ご自分が造られたすべてのものと、ご自分がほんのわずかに前に造られた美しいものをみな滅ぼすことを考えるのは、なんと心痛むことであったことでしょう！

それでも、今になってさえ、このお方の無限の愛の心は、これほどの恐ろしい裁きを実行するのをためらわれましたが、それは必要なことでした。おそらく、もしかすると、もう一度チャンスを与えるなら、ご自分に帰ってくる者が何人かいるかもしれません。もしほんのひとにぎりの、二人、三人しかいなかったとしても、このお方は喜んで待つでしょう。

「わたしの霊はながく人の中にとどまらない」、「彼の年は百二十年であろう」と言われました。

つまり、このお方は 120 年もの長い間、だれかご自分の召しに注意を払って、悔い改める者がいるかどうかをごらんになるために待たれるのでした。

しかし、今やもしそのような召しを与えられるためには、だれかそれを伝える人を見つけなければなりません。ではだれでしょうか？ アダムの子らのほとんどは、サタンのやり方にしがっていました。これほどの重要な任務を任せられるのはだれでしょうか。神さまが、ご自分の最後の憐れみのメッセージを滅びる運命の世界に伝えるのに、だれを通して語ることができるでしょうか。

じゃがいものガレット

■材料

じゃがいも	500g
ココナツオイル	30g
塩	5g
オレガノ	少々
サラダ油	少々

■作り方

1. じゃがいもは皮をむいて、千切りにします。水にさらさないでください。
2. 塩を入れてじゃがいもとよくあえます。
3. 常温で溶かしたココナツオイルをじゃがいもとよく混ぜます。
4. オレガノを加えます。
5. 中火で熱して、サラダ油を入れたら、じゃがいもを汁ごと入れます。
6. 片面 5 分焼いて、ひっくり返して 5 分焼きます。
7. 焼き色がしっかりつくまで焼くと表面がカリッとします。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

☐ 福音の宝

☐ 聖所真理

お申込先 : sdarm.shomaru@gmail.com



書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート3 第2話

悲しく悪い日々(II)

それは創造からおよそ900年たったときでした。500年後には、事態(じたい)はもっと悪くなっていました。この頃までには、どこもかしこもけんかと戦いばかりでした。どの人の命も安全ではありませんでした。聖書は、「暴虐(ぼうぎゃく)が地に満ちた」とのべています。

こんなことになってしまったとは、なんと悲しいことでしょう! 神さまは世界を美しく、平和で、喜びの場所にするために非常に多くのことをして下さいました。いまやサタンがほとんどすべてを台なしにしてしまったのです。

神はどれほど残念に思われたことでしょう! 聖書は、「主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた。主は地の上に人を造ったのを悔いて、心を痛め」たと述べています。

この最後の言葉に、わたしたちは神さまの悲しみの深さをかすかにとらえることができます。このお方はもしアダムとエバがへびの言うことを聞かずにいさえすれば、もし彼らの子供たちがご自分を愛し、エノクのようにご自分と共に歩みさえしたら、どうなっていたかをお考えになっていました!



神さまは恐ろしいまでの悲しみをもっておっしゃいました。「わたしが創造した人を地のおもてからぬぐい去ろう。人も獣も、這うものも、空の鳥までも。わたしは、これらを造ったことを悔

(67 ページに続く)